



Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド

Release 5.1(1)



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリック ドメイン パーミッションとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取引によって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いません。

CCVP, the Cisco Logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, *Packet*, PIX, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0609R)

Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド

Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



このマニュアルについて	vii
目的	vii
対象読者	vii
マニュアルの構成	viii
関連マニュアル	ix
表記法	x
技術情報の入手方法	xii
Cisco.com	xii
Product Documentation DVD (英語版)	xii
マニュアルの発注方法 (英語版)	xii
シスコシステムズマニュアルセンター	xiii
シスコ製品のセキュリティの概要	xiv
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xiv
Product Alerts および Field Notices	xv
テクニカル サポート	xvi
Cisco Technical Support & Documentation Web サイト	xvi
Japan TAC Web サイト	xvii
サービス リクエストの発行	xvii
サービス リクエストのシビラティの定義	xvii
その他の資料および情報の入手方法	xviii

CHAPTER 1

はじめに	1-1
概要	1-1
ブラウザ要件	1-2
オペレーティング システムのステータスと設定	1-2
設定	1-2
再起動オプション	1-3
セキュリティ設定	1-3
ソフトウェア アップグレード	1-4
サービス	1-4
コマンドライン インターフェイス	1-4

CHAPTER 2

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページへのログイン 2-1

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページへのログイン 2-2

管理者パスワードの回復 2-3

CHAPTER 3

プラットフォームのステータスと設定 3-1

クラスタ ノード 3-2

ハードウェア ステータス 3-3

ログ 3-3

ネットワーク ステータス 3-4

インストールされているソフトウェア 3-5

システム ステータス 3-6

CHAPTER 4

設定 4-1

IP 設定 4-1

イーサネットの設定 4-1

パブリッシャの設定 4-2

Cisco Unified CallManager 後続ノードでの IP アドレスの変更 4-2

NTP サーバ 4-3

SMTP 設定 4-4

時間の設定 4-4

CHAPTER 5

システムの再起動 5-1

バージョンを切り替えて再起動 5-1

現在のバージョンの再起動 5-2

システムのシャットダウン 5-3

CHAPTER 6

セキュリティ 6-1

Internet Explorer のセキュリティ オプションの設定 6-1

証明書と証明書信頼リストの管理 6-2

証明書の表示 6-2

証明書または CTL のダウンロード 6-3

証明書の削除と再作成 6-4

証明書の削除 6-4

証明書の再作成 6-4

証明書または証明書信頼リストのアップロード 6-5

証明書署名要求のダウンロード 6-6

サードパーティの CA 証明書の使用法 6-6

	証明書署名要求の作成	6-7
	サードパーティの CA 証明書の取得	6-7
	証明書の有効期限日の監視	6-8
	IPSEC の管理	6-9
	既存の IPsec ポリシーの表示または変更	6-9
	新しい IPsec ポリシーの設定	6-10
CHAPTER 7	ソフトウェア アップグレード	7-1
	ソフトウェアのアップグレードとインストール	7-2
	ローカル ソースから	7-2
	リモート ソースから	7-4
	ダイヤル プランのインストール	7-6
	ロケールのインストール	7-7
	ロケールのインストール	7-7
	ロケール ファイル	7-8
	エラー メッセージ	7-8
	Cisco Unified Communication 製品のサポート	7-9
	TFTP サーバ ファイルのアップロード	7-10
CHAPTER 8	サービス	8-1
	Ping	8-1
	リモート サポート	8-2
APPENDIX A	コマンドライン インターフェイス	A-1
	概要	A-1
	CLI セッションの開始	A-2
	CLI の基本	A-3
	コマンドの補完	A-3
	コマンドのヘルプの取得	A-3
	CLI セッションの終了	A-4
	Cisco IPT Platform の CLI コマンド	A-5
	File コマンド	A-5
	Show コマンド	A-11
	Set コマンド	A-23
	Unset コマンド	A-31
	Delete コマンド	A-32
	Utility コマンド	A-33
	Run コマンド	A-44



このマニュアルについて

目的

『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド』では、Cisco Unified Communications Operating System グラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) およびコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、さまざまなシステムおよびネットワークに関連する共通タスクを実行する方法について説明します。

対象読者

『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド』は、Cisco Unified CallManager システムの管理およびサポートを担当するネットワーク管理者を対象としています。ネットワーク エンジニア、システム管理者、またはテレコム エンジニアはこのマニュアルを使用して、オペレーティングシステムの機能を学習し管理します。このマニュアルは、テレフォニーおよび IP ネットワーク テクノロジーに関して理解していることを前提としています。

マニュアルの構成

次の表は、このマニュアルの構成を示しています。

章	説明
第 1 章 「はじめに」	この章では、Cisco Unified Communications Operating System で使用できる機能の概要について説明します。
第 2 章 「Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理 ページへのログイン」	この章では、Cisco Unified Communications Operating System にログインする手順、および紛失した管理パスワードの回復手順について説明します。
第 3 章 「プラットフォームのステータスと設定」	この章では、オペレーティングシステムのステータスおよび設定を表示する手順について説明します。
第 4 章 「設定」	この章では、イーサネット設定、IP 設定、および NTP 設定の表示および変更手順について説明します。
第 5 章 「システムの再起動」	この章では、システムの再起動およびシャットダウンの手順について説明します。
第 6 章 「セキュリティ」	この章では、証明書の管理および IPSec の管理の手順について説明します。
第 7 章 「ソフトウェア アップグレード」	この章では、ソフトウェア アップグレードをインストールする手順および TFTP サーバにファイルをアップロードする手順について説明します。
第 8 章 「サービス」	この章では、ping およびリモート サポートを含むオペレーティングシステムが提供するユーティリティの使用手順について説明します。
付録 A 「コマンドライン インターフェイス」	この付録では、使用可能なコマンド、コマンド構文、およびパラメータを含むコマンドライン インターフェイスに関する情報について説明します。

関連マニュアル

Cisco IP テレフォニー アプリケーションおよび製品に関連する詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』および『Cisco Unified CallManager システム ガイド』
『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』は、Cisco Unified CallManager の Voice over IP ネットワーク の設定、保守、および管理について、順を追って説明しています。
『Cisco Unified CallManager システム ガイド』は、Cisco Unified CallManager のシステムおよびコンポーネント、チェックリストの設定、および『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』に関連した手順について説明しています。
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』
このマニュアルは、Cisco Music On Hold、Cisco Unified CallManager Extension Mobility などの Cisco Unified CallManager の機能およびサービスの設定方法について説明しています。
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』および『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』
このマニュアルは、Cisco Unified CallManager のサービスアビリティおよびリモート サービスアビリティのアラーム設定、トレース設定、およびその他のレポートの設定について順を追って説明しています。
- 『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド』
このマニュアルは、バックアップ設定、Cisco Unified CallManager データのバックアップ、およびデータの復元手順について記載されています。
- 『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』
このマニュアルは、Cisco Unified CallManager、Cisco Unified IP Phone、SRST 参照先、および Cisco MGCP ゲートウェイの設定方法、トラブルシューティング認証、および暗号化について説明しています。

表記法

このマニュアルは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
→	例の中で重要なテキストを強調しています。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイント アドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

情報には役立つヒントが含まれることを意味します。

注意は、次のように表しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

Cisco.com

次の URL から、シスコ製品の最新資料を入手することができます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

また、シスコの Web サイトの各国語版へは、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。<http://www.cisco.com/jp>

Product Documentation DVD (英語版)

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納したライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製のハードウェア製品やソフトウェア製品のインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関するマニュアルにアクセスできます。また、この DVD を使用すると、次の URL のシスコの Web サイトに掲載されている HTML マニュアルおよび PDF ファイルにアクセスすることができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

Product Documentation DVD は、定期的に作成されリリースされます。DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザの場合、Product Documentation Store の Cisco Marketplace から Product Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD= または DOC-DOCDVD=SUB) を発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>

マニュアルの発注方法 (英語版)

Cisco Marketplace にアクセスするには、Cisco.com ユーザ登録が必要です。登録ユーザの場合、Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>

ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル (英文のみ) を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告、注意事項、および回答の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

勧告、注意事項、および回答がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードに登録してください。PSIRT RSS フィードに登録する方法に関する情報には、次の URL からアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合 : security-alert@cisco.com (英語のみ)
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと見なされます。
- 緊急でない場合 : psirt@cisco.com (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)



ヒント

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または互換製品 (GnuPG など) を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 9.x で暗号化された情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

PGP を持っていない、または使用していない場合は、機密情報を送信する前に PSIRT に問い合わせ、他のデータ暗号化方法を確認してください。

Product Alerts および Field Notices

シスコ製品に対する変更やアップデートは、Cisco Product Alerts および Cisco Field Notices で発表されます。Cisco.com のプロダクト アラート ツールを使用すると、Cisco Product Alerts および Cisco Field Notices を受け取ることができます。このツールを使用すれば、プロフィールを作成して、情報を受け取る製品を選択できます。

プロダクト アラート ツールにアクセスするには、Cisco.com の登録ユーザとなる必要があります (Cisco.com にユーザ登録するには、<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do> にアクセスします)。登録ユーザは、<http://tools.cisco.com/Support/PAT/do/ViewMyProfiles.do?local=en> でこのツールを使用できます。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、**Cisco Product Identification ツール**を使用して製品のシリアル番号を確認してください。Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでこのツールを使用するには、**Tools & Resources** リンクをクリックし、**All Tools (A-Z)** タブをクリックした後、アルファベット順のリストから **Cisco Product Identification Tool** を選択します。このツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、**show** コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。



ヒント

Cisco.com での表示および検索

ブラウザが Web ページをリフレッシュしていないと思われる場合は、Ctrl キーを押したまま F5 を押すことで強制的にブラウザに Web ページを更新させます。

技術情報を検索する場合は、Cisco.com の Web サイト全体ではなく、技術マニュアルに検索対象を絞り込みます。Cisco.com のホームページで、Search ボックスの下にある **Advanced Search** リンクをクリックし、**Technical Support & Documentation** オプション ボタンをクリックしてください。

Cisco.com の Web サイトまたは特定の技術マニュアルに関するフィードバックを送るには、Cisco.com のすべての Web ページの下部にある **Contacts & Feedback** をクリックします。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Online Subscription Center は、さまざまなシスコのメールマガジンや他のコミュニケーションを申し込むことができる Web サイトです。プロフィールを作成して、受け取る製品を選択します。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/offer/subscribe>

- 『Cisco Product Quick Reference Guide』は手軽でコンパクトな参照ツールです。チャネルパートナー経由で販売される多くのシスコ製品に関する簡単な製品概要、主要な機能、サンプル部品番号、および簡単な技術仕様を記載しています。年 2 回の更新の際には、シスコのチャネル製品の最新情報が収録されます。『Cisco Product Quick Reference Guide』の注文方法および詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/guide>

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーク全般、トレーニング、および認定資格に関する出版物を幅広く発行しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL から Cisco Press にアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>

- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。

<http://www.cisco.com/discuss/networking>

- 「What's New in Cisco Documentation」は、シスコ製品の最新のマニュアル リリースに関する情報を提供するオンライン出版物です。このオンライン出版物は毎月更新され、製品カテゴリ別に編成されているため、製品のマニュアルを簡単に検索できます。次の URL で「What's New in Cisco Documentation」の最新リリースを見ることができます。

<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/abtnucd/136957.htm>

- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



はじめに

Cisco Unified CallManager 5.1(1) では、Cisco Unified Communications オペレーティング システムを使用して、一般的なシステム管理機能を実行できます。

この章は、次の内容で構成されています。

- [概要](#)
- [ブラウザ要件](#)
- [オペレーティング システムのステータスと設定](#)
- [再起動オプション](#)
- [セキュリティ設定](#)
- [ソフトウェア アップグレード](#)
- [サービス](#)
- [コマンドライン インターフェイス](#)

概要

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページを使用して次の作業を実行することにより、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの設定と管理ができます。

- ソフトウェアとハードウェアのステータス チェック
- IP アドレスのチェックと更新
- 他のネットワーク デバイスへの ping
- NTP サーバの管理
- システム ソフトウェアとオプションのアップグレード
- システムの再起動

次の項では、オペレーティング システムの各機能について詳細に説明します。

ブラウザ要件

Cisco Unified CallManager の管理ページ、Cisco Unified CallManager Serviceability ページ、および Cisco Unified Communications の管理ページにアクセスするには、次のブラウザを使用します。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 6.0 以上
- Netscape Navigator バージョン 7.1 以上



(注) シスコは、上記以外のブラウザ (Mozilla Firefox など) のサポートやテストは行っていません。

オペレーティング システムのステータスと設定

[表示] メニューでは、次に示すさまざまなオペレーティング システム コンポーネントのステータスをチェックできます。

- クラスタとノード
- ハードウェア
- ネットワーク
- システム
- インストールされているソフトウェアとオプション

詳細については、[第3章「プラットフォームのステータスと設定」](#)を参照してください。

設定

[設定] メニューでは、次のオペレーティング システム設定の表示と更新ができます。

- イーサネット：アプリケーションのインストール時に入力された IP アドレスおよび Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) クライアントの設定を更新します。
- NTP サーバ設定：外部 NTP サーバの IP アドレスを設定し、NTP サーバの追加や削除を行います。
- SMTP 設定：オペレーティング システムがメール通知の送信に使用する SMTP ホストを設定します。

詳細については、[第4章「設定」](#)を参照してください。

再起動オプション

[再起動]メニューでは、次のようなシステムの再起動またはシャットダウンのオプションを選択できます。

- バージョンの切り替え：アクティブなディスクパーティションとアクティブでないディスクパーティションを切り替え、システムを再起動します。通常このオプションは、アクティブでないパーティションを更新した後、新しいソフトウェアバージョンを実行する場合に選択します。
- 現在のバージョン：パーティションを切り替えずに、システムを再起動します。
- システムのシャットダウン：実行中のすべてのソフトウェアを停止し、サーバをシャットダウンします。



(注) このコマンドを実行しても、サーバの電源は切れません。サーバの電源を切るには、電源ボタンを押します。

詳細については、[第5章「システムの再起動」](#)を参照してください。

セキュリティ設定

オペレーティングシステムのセキュリティオプションを使用すると、セキュリティ証明書と Secure Internet Protocol (IPSec) を管理できます。[セキュリティ]メニューでは、次のセキュリティオプションを選択できます。

- 証明書の管理：証明書、証明書信頼リスト (CTL) および証明書署名要求 (CSR) を管理します。証明書の表示、アップロード、ダウンロード、削除、および再作成ができます。[証明書の管理]を使用すると、サーバ上の証明書の有効期限を監視することもできます。
- IPSEC の管理：既存の IPSEC ポリシーの表示または更新、新規の IPSEC ポリシーと割り当ての設定を行います。

詳細については、[第6章「セキュリティ」](#)を参照してください。

ソフトウェア アップグレード

ソフトウェア アップグレード オプションを使用すると、オペレーティング システムで実行されているソフトウェア バージョンをアップグレードしたり、特定のソフトウェア オプション (Cisco Unified CallManager ロケール インストーラ、ダイヤル プラン、TFTP サーバ ファイルなど) をインストールしたりできます。

[インストール / アップグレード] メニュー オプションでは、ローカル ディスクまたはリモート サーバからシステム ソフトウェアをアップグレードできます。アップグレードされたソフトウェアはアクティブでないパーティションにインストールされ、アップグレード後にシステムを再起動してパーティションを切り替えると、新しいソフトウェア バージョンの実行が開始されます。



(注)

Cisco Unified CallManager 5.1(1) の場合、すべてのソフトウェアのインストールとアップグレードは、[ソフトウェアアップグレード] メニュー オプションを使用して実行する必要があります。システムでアップロードと処理が可能なソフトウェアは、シスコシステムズが承認したものに限定されます。Cisco Unified CallManager の以前のバージョンで使用していたサードパーティ製もしくは Windows ベースのソフトウェア アプリケーションは、Cisco Unified CallManager 5.1(1) と共にインストールしたり使用したりできません。

詳細については、[第7章「ソフトウェア アップグレード」](#)を参照してください。

サービス

このアプリケーションには、次のオペレーティング システム ユーティリティが搭載されています。

- Ping : 他のネットワーク デバイスとの接続をチェックします。
- リモートサポート : シスコのサポート担当者がシステムへのアクセスに使用できるアカウントを設定します。このアカウントは、指定された日数が経過すると、自動的に失効します。

詳細については、[第8章「サービス」](#)を参照してください。

コマンドライン インターフェイス

コマンドライン インターフェイスは、コンソールからアクセスするかサーバへのセキュア シェル接続を介してアクセスしますが、オペレーティング システム ユーザ インターフェイスを介して使用可能なオペレーティング システム機能のサブセットを提供します。コマンドライン インターフェイスはシステムの緊急事態用に設計されたものであり、ユーザ インターフェイスの代用ではないことに注意してください。

詳細については、[付録 A「コマンドライン インターフェイス」](#)を参照してください。



Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページへのログイン

この章では、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページにアクセスする手順および紛失したパスワードを回復する手順について説明します。

Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページへのログイン

Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページにアクセスしてログインするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CallManager の管理ページにログインします。

ステップ 2 [Cisco Unified CallManager の管理] ウィンドウの右上にある [ナビゲーション] メニューで、[Cisco Unified OS の管理] を選択して [移動] をクリックします。

[Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ログイン ウィンドウが表示されます。



(注) また、次の URL を入力して、直接 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] にアクセスすることもできます。
`http://server-name/iptplatform.`

ステップ 3 管理者ユーザ名とパスワードを入力します。



(注) 管理者ユーザ名とパスワードは、インストール時に決めるか、コマンドライン インターフェイスを使用して作成します。

ステップ 4 [送信] をクリックします。

[Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウが表示されます。

管理者パスワードの回復

管理者パスワードを紛失したためにシステムにアクセスできない場合は、次の手順を実行して管理者パスワードをリセットします。



(注)

この手順の実行中は、システムへ物理的にアクセスできることを証明するため、有効な CD または DVD をいったんディスクドライブから取り出し、再び挿入するように求められます。

手順

ステップ 1 次のユーザ名とパスワードを使用して、システムにログインします。

- ユーザ名 : pwrecovery
- パスワード : pwreset

[Welcome to admin password reset] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 任意のキーを押して続行します。

ステップ 3 ディスクドライブに CD または DVD が入っている場合は取り出します。

ステップ 4 任意のキーを押して続行します。

システムは、CD または DVD がディスクドライブから取り出されたことを確認します。

ステップ 5 有効な CD または DVD をディスクドライブに挿入します。

システムは、ディスクが挿入されたことを確認します。

ステップ 6 システムがディスクの挿入を確認すると、新しい管理者パスワードを入力するよう指示されます。



(注)

管理者ユーザ名は `admin` にリセットされます。別の管理者ユーザ名とパスワードを設定する場合は、CLI コマンドの `set password` を使用します。詳細については、[付録 A「コマンドライン インターフェイス」](#) を参照してください。

ステップ 7 新しいパスワードを再度入力します。

システムは、新しいパスワードの強度をチェックします。入力したパスワードの文字の組み合わせが不十分な場合は、新しいパスワードを入力するよう指示されます。

ステップ 8 新しいパスワードの強度が確認されると、このパスワードにリセットされ、任意のキーを押してリセットユーティリティを終了するよう指示されます。

■ 管理者パスワードの回復



プラットフォームのステータスと設定

この章ではシステムの管理について説明します。この章は次の内容で構成されています。

- [クラスタ ノード](#)
- [ハードウェア ステータス](#)
- [ログ](#)
- [ネットワーク ステータス](#)
- [インストールされているソフトウェア](#)
- [システム ステータス](#)

オペレーティングシステム、プラットフォームのハードウェア、またはネットワークのステータスを表示できます。

クラスタ ノード

クラスタ内のノードに関する情報を表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[表示] > [クラスタ] を選択します。

[クラスタノード (Cluster Nodes)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [クラスタノード (Cluster Nodes)] ウィンドウの各フィールドの説明については、[表 3-1](#) を参照してください。

表 3-1 クラスタ ノードのフィールド説明

フィールド	説明
ホスト名 (Hostname)	サーバの完全ホスト名を表示します。
IP アドレス (IP Address)	サーバの IP アドレスを表示します。
エイリアス (Alias)	サーバのエイリアス名を表示します (定義されている場合)。
ノードのタイプ (Type of Node)	サーバがパブリッシャ ノードかサブスクライバ ノードかを示します。

ハードウェア ステータス

ハードウェア ステータスを表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[表示] > [ハードウェア] を選択します。

[ハードウェアステータス (Hardware Status)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ハードウェアステータス (Hardware Status)] ウィンドウの各フィールドの説明については、表 3-2 を参照してください。

表 3-2 ハードウェア ステータスのフィールド説明

フィールド	説明
ハードウェアプラットフォームタイプ (Hardware platform type)	プラットフォーム サーバのモデル ID を表示します。
プロセッサの数	プラットフォーム サーバのプロセッサの数を表示します。
CPU タイプ (The CPU type)	プラットフォーム サーバのプロセッサのタイプを表示します。
メモリ (Memory)	メモリの総量を MB (メガバイト) で表示します。
詳細レポート (Detailed Report)	プラットフォーム ハードウェアの詳細な要約を表示します。

ログ

システム ログを表示するには、Cisco Unified CallManager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) をインストールする必要があります。RTMT のインストール方法と使用方法の詳細については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

ネットワーク ステータス

表示されるネットワーク ステータス情報は、ネットワークの耐障害性が有効になっているかどうかによって異なります。ネットワークの耐障害性が有効になっていると、イーサネット ポート 0 に障害が発生した場合、イーサネット ポート 1 が自動的にネットワーク通信を継承します。ネットワークの耐障害性が有効になっている場合、ネットワーク ステータス情報にはネットワーク ポートのイーサネット 0、イーサネット 1、および Bond 0 が表示されます。ネットワークの耐障害性が有効になっていない場合、ステータス情報にはイーサネット 0 のみが表示されます。

ネットワーク ステータスを表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[表示] > [ネットワーク] を選択します。

[ネットワーク設定 (Network Settings)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ネットワーク設定 (Network Settings)] ウィンドウの各フィールドの説明については、表 3-3 を参照してください。

表 3-3 ネットワーク設定のフィールド説明

フィールド	説明
Status	イーサネット ポート 0 と 1 について、ポートがアップかダウンかを示します。
DHCP	イーサネット ポート 0 について、DHCP が有効になっているかどうかを示します。
MAC Address	ポートのハードウェア アドレスを表示します。
Speed	接続の速度を表示します。
Duplex	デュプレックス モードを表示します。
IP Address	イーサネット ポート 0 (およびイーサネット ポート 1 (ネットワーク耐障害性 (NFT) が有効になっている場合)) の IP アドレスを表示します。
IP Mask	イーサネット ポート 0 (およびイーサネット ポート 1 (NFT が有効になっている場合)) の IP マスクを表示します。
Link Detected	アクティブなリンクがあるかどうかを示します。
Auto Negotiation	自動ネゴシエーションがアクティブかどうかを示します。
MTU	最大伝送ユニットを表示します。
Queue Length	キューの長さを表示します。
Receive Statistics	受信済みのバイトとパケットに関する情報を表示します。
Transmit Statistics	送信済みのバイトとパケットに関する情報を表示します。
Primary DNS	プライマリ ドメイン ネーム サーバの IP アドレスを表示します。
Secondary DNS	セカンダリ ドメイン ネーム サーバの IP アドレスを表示します。
Domain	サーバのドメインを表示します。
Gateway	イーサネット ポート 0 上のネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを表示します。

インストールされているソフトウェア

ソフトウェア バージョンとインストールされているソフトウェア オプションを表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[表示] > [ソフトウェア] を選択します。

[ソフトウェアパッケージ (Software Packages)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ソフトウェアパッケージ (Software Packages)] ウィンドウの各フィールドの説明については、[表 3-4](#) を参照してください。

表 3-4 ソフトウェア パッケージのフィールド説明

フィールド	説明
パーティションのバージョン (Partition Versions)	アクティブなパーティションとアクティブでないパーティションで実行されているソフトウェア バージョンを表示します。
インストールされているアクティブなソフトウェア オプションのバージョン (Active Version Installed Software Options)	インストールされているソフトウェア オプションのバージョンを示します。これには、アクティブ バージョンにインストールされているロケールとダイヤル プランも含まれます。
インストールされているアクティブでないソフトウェア オプションのバージョン (Inactive Version Installed Software Options)	インストールされているソフトウェア オプションのバージョンを示します。これには、アクティブでないバージョンにインストールされているロケールとダイヤル プランも含まれます。

システム ステータス

システム ステータスを表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[表示] > [システム] を選択します。

[システムステータス (System Status)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [システムステータス (System Status)] ウィンドウの各フィールドの説明については、表 3-5 を参照してください。

表 3-5 プラットフォームのステータスのフィールド説明

フィールド	説明
Host Name	Cisco Unified Communications オペレーティング システムがインストールされている Cisco MCS ホストの名前を表示します。
Date	オペレーティング システムのインストール時に指定された大陸と地域に基づいて、日時を表示します。
Time Zone	インストール時に選択されたタイムゾーンを表示します。
Locale	オペレーティング システムのインストール時に選択された言語を表示します。
Product Ver	オペレーティング システムのバージョンを表示します。
Platform Ver	プラットフォームのバージョンを表示します。
Uptime	システムの稼働時間情報を表示します。
CPU Idle	CPU 容量のうち、アイドル状態の割合、システム プロセスを実行している割合、およびユーザ プロセスを実行している割合を表示します。
Memory	メモリの使用状況に関する情報を表示します。これにはメモリの総容量、空きメモリの容量、使用中メモリの容量 (KB 単位) も含まれます。
Disk/active	アクティブなディスクの合計ディスク容量、空きディスク容量、使用中のディスク容量を表示します。
Disk/inactive	非アクティブなディスクの合計ディスク容量、空きディスク容量、使用中のディスク容量を表示します。
Disk/logging	ディスク ロギングに使用される合計ディスク容量、空きディスク容量のディスク容量を表示します。



設定

IP 設定、ホスト設定、およびネットワーク タイム プロトコル (NTP) 設定の表示と設定をするには、設定オプションを使用します。

IP 設定

[IP 設定] オプションを使用すると、イーサネット接続の IP とポートの設定を表示および変更でき、後続ノードではパブリッシャの IP アドレスを設定できます。

イーサネットの設定

[IP 設定] ウィンドウでは、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) がアクティブであるかどうかを示されます。また、ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスのほかに、関連するイーサネットの IP アドレスも表示されます。

すべてのイーサネット設定は Eth0 のみに適用されます。Eth1 に対する設定は一切できません。Eth0 の最大伝送ユニット (MTU) は、デフォルトで 1500 に設定されています。

IP 設定を表示または変更するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[設定] > [IP] > [イーサネット] を選択します。

[イーサネットの設定 (Ethernet Settings)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 イーサネットの設定を変更するには、該当するフィールドに新しい値を入力します。[イーサネットの設定 (Ethernet Settings)] ウィンドウの各フィールドの説明については、表 4-1 を参照してください。



(注) DHCP を有効にすると、ポートとゲートウェイの設定は無効になり変更できなくなります。

ステップ3 変更内容を保存するには、[保存]をクリックします。

表 4-1 イーサネットの設定のフィールドと説明

フィールド	説明
DHCP	DHCP が有効か無効かを示します。
ポート設定 (Port Settings) IP アドレス (IP Address)	システムの IP アドレスを表示します。
マスク (Mask)	IP サブネット マスクのアドレスを表示します。
ゲートウェイ (Gateway) IP アドレス (IP Address)	ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを表示します。

パブリッシャの設定

後続ノードまたはサブスクリバ ノードでは、最初のノードまたはノードのパブリッシャの IP アドレスを表示または変更できます。

パブリッシャの IP 設定を表示または変更するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[設定]>[IP]>[パブリッシャ]を選択します。

[パブリッシャの設定 (Publisher Settings)] ウィンドウが表示されます。



(注) パブリッシャの IP アドレスは、クラスタの後続ノードでのみ表示および変更が可能で、パブリッシャ自体ではできません。

ステップ2 新しいパブリッシャ IP アドレスを入力します。

ステップ3 [保存]をクリックします。

Cisco Unified CallManager 後続ノードでの IP アドレスの変更

後続ノードがオフラインの場合、最初の Cisco Unified CallManager ノードを変更すると、後続ノードで Cisco Unified CallManager の管理ページにログインできなくなることがあります。このような状況が発生した場合は、次の手順を実行します。

ステップ1 次の IP アドレスを使用して、後続ノードからオペレーティング システムの管理に直接ログインします。

`http://server-name/iptplatform`

ここで *server-name* には後続ノードのホスト名または IP アドレスを指定します。

ステップ2 管理者ユーザ名とパスワードを入力し、[送信]をクリックします。

ステップ3 [設定]>[IP]>[パブリッシャ]を選択します。

ステップ4 パブリッシャの新しいIPアドレスを入力し、[保存]をクリックします。

ステップ5 後続ノードを再起動します。

NTP サーバ

外部 NTP サーバが階層 9 以上 (1 ~ 9) であることを確認します。外部 NTP サーバを追加、削除、または変更するには、次の手順を実行します。



(注) 最初のノードまたはパブリッシャでは、NTP サーバの設定のみできます。

手順

ステップ1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[設定]>[NTP サーバ]を選択します。

[NTP サーバの設定 (NTP Server Settings)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 NTP サーバの追加、削除、または変更ができます。

- NTP サーバを削除するには、削除するサーバの前にあるチェックボックスをオンにし、[削除]をクリックします。
- NTP サーバを追加するには、[追加]をクリックし、ホスト名またはIPアドレスを入力し、[保存]をクリックします。
- NTP サーバを変更するには、IPアドレスをクリックし、ホスト名またはIPアドレスを変更し、[保存]をクリックします。



(注) NTP サーバに対する変更が完了するまでに、最大で5分かかることがあります。NTP サーバに何らかの変更を行った場合は、必ずウィンドウをリフレッシュし、正しいステータスを表示するようにしてください。

ステップ3 [NTP サーバの設定 (NTP Server Settings)] ウィンドウをリフレッシュして正しいステータスを表示するには、[設定]>[NTP サーバ]を選択します。



(注) NTP サーバを削除、変更、または追加したら、クラスタ内の他のすべてのノードを再起動し、変更を有効にする必要があります。

SMTP 設定

[SMTP 設定] ウィンドウでは、SMTP ホスト名を表示または設定でき、SMTP ホストがアクティブかどうかが表示されます。



ヒント

証明書有効期限モニタなどでシステムからメール通知が送信されるようにする場合は、SMTP ホストを設定する必要があります。

[SMTP 設定] にアクセスするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[設定] > [SMTP] を選択します。

[SMTP 設定 (SMTP Settings)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 SMTP のホスト名または IP アドレスを入力または変更します。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

時間の設定

時間を手動で設定するには、次の手順を実行します。



(注)

サーバの時間を手動で設定する前に、設定済みの NTP サーバを削除する必要があります。詳細については、[P.4-3 の「NTP サーバ」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[設定] > [時間] を選択します。

ステップ 2 システムの日時を入力します。

ステップ 3 [保存] をクリックします。



システムの再起動

この項では、次の再起動オプションを使用する手順について説明します。

- [バージョンを切り替えて再起動](#)
- [現在のバージョンの再起動](#)
- [システムのシャットダウン](#)

バージョンを切り替えて再起動

このオプションは、新しいソフトウェアバージョンにアップグレードする場合や、前のソフトウェアバージョンにフォールバックする必要がある場合にも使用できます。アクティブなディスクパーティション上で実行されているシステムをシャットダウンし、その後、アクティブでないパーティション上のソフトウェアバージョンを使用してシステムを自動的に再起動するには、次の手順を実行します。



注意

この手順を実行すると、システムが再起動し、一時的に使用できなくなります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[**再起動**] > [**バージョンの切り替え**] を選択します。

[ソフトウェアバージョンの切り替え (Switch Software Version)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、アクティブなパーティション上とアクティブでないパーティション上のソフトウェアバージョンが表示されます。

ステップ 2 バージョンを切り替えて再起動するには、[**バージョンの切り替え**] をクリックします。操作を中止するには、[**キャンセル**] をクリックします。

[**バージョンの切り替え**] をクリックした場合、システムが再起動し、現在アクティブでないパーティションがアクティブになります。

現在のバージョンの再起動

バージョンを切り替えずに現在のパーティション上のシステムを再起動するには、次の手順を実行します。

**注意**

この手順を実行すると、システムが再起動し、一時的に使用できなくなります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[**再起動**] > [**現在のバージョン**] を選択します。

[現在のバージョンの再起動 (Restart Current Version)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 システムを再起動する場合は[**再起動**]を、操作を中止する場合は[**キャンセル**]をクリックします。

[**再起動**] をクリックした場合、バージョンを切り替えずに現在のパーティションでシステムが再起動されます。

システムのシャットダウン

**注意**

サーバの電源ボタンを押すと、ただちにシステムがシャットダウンされます。

システムをシャットダウンするには、次の手順を実行します。

**注意**

この手順を実行すると、システムがシャットダウンされます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[再起動] > [システムのシャットダウン] を選択します。

[システムのシャットダウン (Shutdown System)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 システムをシャットダウンする場合は [シャットダウン] を、操作を中止する場合は [キャンセル] をクリックします。

[シャットダウン] をクリックすると、すべてのプロセスが停止し、システムがシャットダウンされます。



(注) ハードウェアの電源は自動的に切れません。



セキュリティ

この章では証明書の管理と IPsec の管理について説明し、次の作業を実行する手順を説明します。

- 証明書と証明書信頼リストの管理
- 証明書の表示
- 証明書または CTL のダウンロード
- 証明書の削除と再作成
- 証明書または証明書信頼リストのアップロード
- 証明書署名要求のダウンロード
- 証明書の有効期限日の監視
- IPSEC の管理
- 既存の IPsec ポリシーの表示または変更
- 新しい IPsec ポリシーの設定

Internet Explorer のセキュリティ オプションの設定

サーバから証明書をダウンロードするには、Internet Explorer のセキュリティ設定が次のように設定されていることを確認します。

手順

- ステップ 1** Internet Explorer を起動します。
 - ステップ 2** [ツール] > [インターネット オプション] を選択します。
 - ステップ 3** [詳細設定] タブをクリックします。
 - ステップ 4** [詳細設定] タブの [セキュリティ] をスクロール ダウンします。
 - ステップ 5** 必要に応じて、[暗号化されたページをディスクに保存しない] チェックボックスをオフにします。
 - ステップ 6** [OK] をクリックします。
-

証明書と証明書信頼リストの管理

証明書の管理メニュー オプションを使用すると、次の機能を実行できます。

- 証明書の表示
- 証明書と証明書信頼リスト (CTL) のアップロード
- 証明書と CTL のダウンロード
- 証明書の削除
- 証明書の再作成
- 証明書署名要求 (CSR) のダウンロード
- 証明書の有効期限の監視



(注)

[セキュリティ] メニューの項目にアクセスするには、管理者パスワードを使用して Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページに再びログインする必要があります。

証明書の表示

既存の証明書を表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [セキュリティ] > [証明書の管理] > [証明書の表示] を選択します。

[Select Certificates or Trust Store] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表示する証明書のタイプのチェックボックス、[自分の証明書 (Own Certificates)] または [信頼証明書 (Trust Certificates)] のいずれかをオンにします。

[Display Certificates or Trust Units] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 表示する証明書のタイプのチェックボックスをオンにします。

[Display Certificates or Trust Store] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 表示する証明書の信頼ストアのチェックボックスをオンにします。

[Details of a Certificate] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 証明書の詳細を表示したら、他のメニュー オプションを選択して [Details of Certificate] ウィンドウを閉じます。

証明書または CTL のダウンロード

証明書または CTL を Cisco Unified Communications オペレーティング システムから PC にダウンロードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [セキュリティ] > [証明書の管理] > [証明書/CTL のダウンロード] を選択します。

[証明書/CTL/CSR のダウンロードの選択 (Select Certificate/CTL/CSR Download)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 該当するダウンロード タイプ、[自分の証明書のダウンロード (Download Own Cert)]、[信頼証明書のダウンロード (Download Trust Cert)]、または [CTL ファイルのダウンロード (Download CTL File)] のいずれかのチェックボックスをオンにします。[次へ] をクリックします。

[Download Certificates or Trust Units] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 ダウンロードする既存の証明書タイプのチェックボックスをオンにし、[次へ] をクリックします。

[Display Certificates or Trust Store] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ダウンロードする既存の証明書のチェックボックスをオンにし、[次へ] をクリックします。

[証明書/CTL/CSR のダウンロード (Certificate/CTL/CSR Download)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [continue] リンクをクリックします。

選択した証明書を示すディレクトリが表示されます。

ステップ 6 証明書または CTL を PC に保存するには、証明書または CTL の名前を右クリックし、[対象をファイルに保存] をクリックします。

ステップ 7 証明書または CTL の保存先を入力します。

ステップ 8 [保存] をクリックします。

証明書の削除と再作成

証明書の削除

信頼できる証明書を削除するには、次の手順を実行します。



注意

証明書を削除すると、システムの動作に影響する場合があります。

手順

-
- ステップ 1** [セキュリティ] > [証明書の管理] > [証明書の削除 / 再作成] を選択します。
- ステップ 2** [信頼証明書の削除 (Delete Trust Cert)] チェックボックスをオンにし、[次へ] をクリックします。
- [Display Certificates or Trust Units For Delete/Regenerate] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 削除する既存の証明書タイプのチェックボックスをオンにし、[次へ] をクリックします。
- [Delete Certificates or Trust Store] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 削除する証明書の [既存の証明書名 (Existing certificate name(s))] チェックボックスをオンにし、[削除] をクリックします。
-

証明書の再作成

証明書を再作成するには、次の手順を実行します。



注意

証明書を再作成すると、システムの動作に影響する場合があります。

手順

-
- ステップ 1** [セキュリティ] > [証明書の管理] > [証明書の削除 / 再作成] を選択します。
- [Select Certificates or Trust Store for Deletion] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [自己署名証明書の再作成 (Regenerate Self-Signed Cert)] チェックボックスをオンにし、[次へ] をクリックします。
- ステップ 3** 再作成する証明書の該当する [既存の証明書タイプ (Existing Certificates Types)] チェックボックスをオンにし、[次へ] をクリックします。
- ステップ 4** 該当する [既存の証明書] チェックボックスをオンにし、[再作成] をクリックします。
-

証明書または証明書信頼リストのアップロード



注意

新しい証明書ファイルまたは証明書信頼リスト (CTL) ファイルをアップロードすると、システムの動作に影響する場合があります。



(注)

システムが信頼証明書を他のクラスタ ノードに自動的に配信することはありません。複数のノードで同じ証明書が必要な場合は、証明書を各ノードに個々にアップロードする必要があります。

CA ルート証明書、アプリケーション証明書、または CTL ファイルをサーバにアップロードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [セキュリティ] > [証明書の管理] > [証明書/CTL のアップロード] を選択します。

[証明書/CTL のアップロードの選択 (Select Certificate/CTL Upload)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のオプション ボタンのいずれかを選択し、[次へ] をクリックします。

- 自分の証明書のアップロード (Upload Own Cert) : サードパーティの CA によって発行されたアプリケーション証明書をアップロードします。
- 信頼証明書のアップロード (Upload Trust Cert) : CA ルート証明書または信頼アプリケーション証明書をアップロードします。
- CTL ファイルのアップロード (Upload CTL File) : CTL ファイルをアップロードします。

[Certificate type for the upload including CTL] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [Certificate type for the upload including CTL] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a. 証明書または CTL のタイプを [既存の証明書タイプ (Existing certificate types)] リストから選択します。
- b. サードパーティの CA で発行されたアプリケーション証明書をアップロードする場合は、CA ルート証明書の名前を [ルート証明書名 (Root Cert Name、拡張子は不要)] テキストボックスに入力します。CA ルート証明書または CTL をアップロードする場合は、このテキストボックスを空白のままにします。
- c. [次へ] をクリックします。

[証明書/CTL のアップロード] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [証明書/CTL のアップロード] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a. 次のいずれかの手順で、アップロードするファイルを選択します。
 - [アップロードするファイル名] テキストボックスで、ファイルのパスを入力します。
 - [参照] ボタンをクリックしてファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- b. ファイルをサーバにアップロードするには、[アップロード] ボタンをクリックします。

証明書署名要求のダウンロード

証明書署名要求をダウンロードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [セキュリティ]>[証明書の管理]>[CSR のダウンロード/作成]を選択します。

[Select Certificate type for CSR] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ダウンロードする CSR の [既存の証明書タイプ (Existing Certificate Types)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [Download CSR if any] チェックボックスをオンにします。

[証明書/CTL/CSR のダウンロード (Certificate/CTL/CSR Download)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [continue] をクリックします。

ディレクトリに選択した証明書が表示されます。

ステップ 5 CSR を PC に保存するには、証明書または CTL の名前を右クリックし、[対象をファイルに保存] をクリックします。

ステップ 6 証明書または CTL の保存先を入力します。

ステップ 7 [保存] をクリックします。

サードパーティの CA 証明書の使用法

Cisco Unified Communications オペレーティング システムは、サードパーティの認証局 (CA) が PKCS # 10 証明書署名要求 (CSR) によって発行した証明書をサポートしています。次の表に、このプロセスの概要および参考となる文書やマニュアルを示します。

	作業	参照先
ステップ 1	サーバに CSR を作成する。	P.6-7 の「証明書署名要求の作成」を参照してください。
ステップ 2	CSR を PC にダウンロードする。	P.6-6 の「証明書署名要求のダウンロード」を参照してください。
ステップ 3	CSR を使用して、CA からアプリケーション証明書を取得する。	アプリケーション証明書に関する情報は、CA から入手してください。その他の注意事項については、P.6-7 の「サードパーティの CA 証明書の取得」を参照してください。
ステップ 4	CA ルート証明書を取得する。	ルート証明書に関する情報は、CA から入手してください。その他の注意事項については、P.6-7 の「サードパーティの CA 証明書の取得」を参照してください。
ステップ 5	CA ルート証明書をサーバにアップロードする。	P.6-5 の「証明書または証明書信頼リストのアップロード」を参照してください。
ステップ 6	アプリケーション証明書をサーバにアップロードする。	P.6-5 の「証明書または証明書信頼リストのアップロード」を参照してください。

	作業	参照先
ステップ 7	CAPF または Cisco Unified CallManager の証明書を更新した場合、新しい CTL ファイルを作成する。	『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
ステップ 8	新しい証明書に影響するサービスを再起動する。	すべての証明書タイプで、対応するサービスを再起動します（たとえば、Tomcat の証明書を更新した場合は Tomcat サービスを再起動します）。さらに、CAPF または Cisco Unified CallManager の証明書を更新した場合は、TFTP サービスも再起動します。 サービスの再起動の詳細については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

証明書署名要求の作成

証明書署名要求（CSR）を作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [セキュリティ] > [証明書の管理] > [CSR のダウンロード / 作成] を選択します。

[Select Certificate type for CSR] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 作成する証明書のタイプを [既存の証明書タイプ (Existing Certificate Types)] で選択します。

ステップ 3 [Generate a new CSR] オプション ボタンを選択します。

ステップ 4 [次へ] をクリックします。

[Cert/IPSEC Operation (CSR/Config/Assoc Create) Done] ウィンドウが表示され、CSR の作成に成功したことが示されます。

サードパーティの CA 証明書の取得

サードパーティの CA が発行するアプリケーション証明書を使用するには、署名付きのアプリケーション証明書と CA ルート証明書の両方を CA から取得する必要があります。これらの証明書に関する情報は、CA から入手してください。入手の手順は、CA によって異なります。

CAPF および Cisco Unified CallManager CSR には、CA へのアプリケーション証明書要求に含める必要のある拡張情報が含まれています。CA が拡張要求メカニズムをサポートしていない場合は、CSR 作成プロセスの最後のページに表示される X.509 拡張を有効にする必要があります。

Cisco Unified Communications オペレーティング システムでは、証明書は DER および PEM 符号化フォーマットで、CSR は PEM 符号化フォーマットで作成されます。また、DER および DER 符号化フォーマットの証明書を受け入れます。

シスコは、Microsoft、Keon、および Verisign CA から取得されたサードパーティの証明書を検証します。それ以外の CA の証明書でも機能する場合がありますが、検証は行われません。

証明書の有効期限日の監視

証明書の有効期限日が近づいたときに、システムから自動的に通知が送信されることはありません。証明書有効期限モニタの表示と設定をするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 現在の証明書有効期限モニタの設定を表示するには、[**セキュリティ**] > [**証明書の管理**] > [**証明書有効期限モニタ**] > [**設定の表示**] を選択します。

[Show Cert Expiry Monitoring Config] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、現在の設定情報が表示されます。


- ステップ 2** 証明書有効期限モニタを設定するには、[**セキュリティ**] > [**証明書の管理**] > [**証明書有効期限モニタ**] > [**設定の変更**] を選択します。

[Change Cert Expiry Monitoring Config] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** 必要な設定情報を入力します。[**証明書有効期限モニタ**] フィールドの説明については、[表 6-1](#) を参照してください。

- ステップ 4** 変更内容を保存するには、[**送信**] をクリックします。

表 6-1 証明書有効期限モニタのフィールド説明

フィールド	説明
通知 / アラート開始時刻 (Notification/Alert Start Time):	証明書が無効になる何日前に通知を送信してもらうかを入力します。
通知の最初の頻度 : 毎 (Initial Frequency of Notification: Every)	通知の頻度を時間または日単位で入力します。
有効 / 無効を指定するには右のオプションをクリックしてください	メール通知を有効にするには、[ENABLE] をクリックします。
通知用に入力したメール ID (Email IDs entered for Notification):	通知を送信するメール アドレスを入力します。
	 <p>(注) システムから通知を送信するには、SMTP ホストを設定する必要があります。</p>

IPSEC の管理

[IPsec] メニュー オプションを使用すると、次の機能を実行できます。

- 既存の IPsec ポリシーの表示または変更
- 新しい IPsec ポリシーの設定



(注)

IPsec は、インストール時にクラスタ内のノード間で自動的に設定されません。

既存の IPsec ポリシーの表示または変更

既存の IPsec ポリシーを表示または変更するには、次の手順を実行します。



(注)

システムのアップグレード中、IPsec ポリシーに何らかの変更を行ってもその変更は無効になります。アップグレード中は IPsec ポリシーを作成したり変更したりしないでください。



注意

IPsec はシステムのパフォーマンスに影響します（特に暗号化した場合）。

手順

ステップ 1 [セキュリティ] > [IPSEC の管理] > [IPSEC の表示 / 変更] を選択します。



(注)

[セキュリティ] メニューの項目にアクセスするには、管理者パスワードを使用して Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページに再びログインする必要があります。

[Display IPSEC Policy] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 該当するポリシーをチェックし、[次へ] をクリックします。

ステップ 3 次の操作のいずれかを実行します。

- IPsec ポリシーを表示するには、[詳細を表示] リンクをクリックします。
- IPsec ポリシーを削除するには、[削除] をクリックします。
- IPsec ポリシーをアクティブにするには、[有効] をクリックします。
- IPsec ポリシーを無効にするには、[無効] をクリックします。



注意

既存の IPsec ポリシーを変更すると、システムの正常な動作に影響する場合があります。

ステップ 4 [詳細を表示] リンクをクリックすると、詳細ウィンドウが表示されます。このウィンドウの各フィールドの説明については、表 6-2 を参照してください。

新しい IPSEC ポリシーの設定

新しい IPSEC ポリシーと割り当てを設定するには、次の手順を実行します。



(注) システムのアップグレード中、IPSEC ポリシーに何らかの変更を行ってもその変更は無効になります。アップグレード中は IPSEC ポリシーを作成したり変更したりしないでください。



注意 IPSEC はシステムのパフォーマンスに影響します（特に暗号化した場合）。

手順

ステップ 1 [セキュリティ] > [IPSEC の管理] > [新規 IPSEC の設定] を選択します。

[選択の設定 (Setup Select)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [証明書] または [事前共有キー] チェックボックスをオンにします。

- [証明書] をオンにする場合は、[同じタイプ (Same Type)] または [異なるタイプ (Different Type)] ノードをオンにします。
- [事前共有キー] をオンにする場合は、キーの名前を入力します。

ステップ 3 [次へ] をクリックします。

[IPSEC のポリシーと割り当ての設定 (Setup IPSEC Policy and Association)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [IPSEC のポリシーと割り当ての設定 (Setup IPSEC Policy and Association)] ウィンドウ に適切な情報を入力します。このウィンドウの各フィールドの説明については、表 6-2 を参照してください。

ステップ 5 新しい IPSEC ポリシーを設定するには、[送信] をクリックします。

表 6-2 IPSEC のポリシーと割り当ての設定のフィールドと説明

フィールド	説明
ポリシー名 (Policy Name)	IPSec ポリシーの名前を指定します。
着信先アドレス タイプ (Dest. Address Type)	着信先アドレス タイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> IP：着信先のピリオドで区切られた IP アドレス FQDN：着信先の完全修飾ドメイン名
ソース アドレス タイプ (Source Address Type)	ソース アドレス タイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> IP：ソースのピリオドで区切られた IP アドレス FQDN：ソースの完全修飾ドメイン名
トンネル/転送(Tunnel/Transport)	トンネルまたは転送を指定します。
プロトコル (Protocol)	次のプロトコルまたは Any を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> TCP UDP Any
着信先ポート (Dest. Port)	着信先で使用されるポート番号を指定します。
フェーズ 1 のライフタイム (Phase 1 Life Time in seconds, 秒)	フェーズ 1 の IKE ネゴシエーションのライフタイムを秒単位で指定します。
ハッシュ アルゴリズム (Hash Algorithm)	ハッシュ アルゴリズムを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> SHA1：フェーズ 1 IKE ネゴシエーションで使用されるハッシュ アルゴリズム MD5：フェーズ 1 IKE ネゴシエーションで使用されるハッシュ アルゴリズム
フェーズ 2 のライフタイム (Phase 2 Life Time in seconds, 秒)	フェーズ 2 の IKE ネゴシエーションのライフタイムを秒単位で指定します。
AH アルゴリズム (AH Algorithm)	このフィールドは機能しないため、代わりに [ESP アルゴリズム (ESP Algorithm)] フィールドを使用して認証アルゴリズムを選択します。
割り当て名 (Assoc. Name)	各 IPSec 割り当てに付けられている割り当て名を指定します。
着信先アドレス (Dest. Address)	着信先の IP アドレスまたは FQDN を指定します。
ソース アドレス (Source Address)	ソース側の IP アドレスまたは FQDN を指定します。
リモート ポート (Remote Port)	着信先のポート番号を指定します。
ソース ポート (Source Port)	ソース側のポート番号を指定します。
暗号化アルゴリズム (Encryption Algorithm)	ドロップダウン リストから、暗号化アルゴリズムを選択します。選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> DES 3DES
フェーズ 1 の DH 値 (Phase 1 DH value)	ドロップダウン リストから、フェーズ 1 の DH 値を選択します。選択肢は 2、1、5、14、16、17、および 18 です。

表 6-2 IPSEC のポリシーと割り当ての設定のフィールドと説明 (続き)

フィールド	説明
ESP アルゴリズム (ESP Algorithm)	ドロップダウン リストから、ESP アルゴリズムを選択します。選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• NULL_ENC• DES• 3DES• BLOWFISH• RIJNDAEL
フェーズ 2 の DH 値 (Phase 2 DH value)	ドロップダウン リストから、フェーズ 2 の DH 値を選択します。選択肢は 2、1、5、14、16、17、および 18 です。



ソフトウェア アップグレード

[ソフトウェアアップグレード]オプションを使用すると、次のようなインストールとアップグレードを実行できます。

- インストール/アップグレード：アプリケーションソフトウェアのアップグレード、Cisco Unified CallManager ロケール インストーラとダイヤル プランのインストール、およびデバイス パック、電話機のファームウェア ロード、その他の COP ファイルのアップロードとインストールをする場合に、このオプションを使用します。
- TFTP サーバファイルのアップロード：電話機が使用するさまざまなデバイス ファイルを TFTP サーバにアップロードする場合に、このオプションを使用します。アップロード可能な TFTP サーバ ファイルには、カスタム呼出音、コールバック トーン、および電話機の背景画像などがあります。

ソフトウェアのアップグレードとインストール

[ソフトウェアアップグレード]ウィンドウでは、ローカルソースまたはリモートソースから Cisco Unified Communications Operating System ソフトウェアをアップグレードできます。

問題が発生した場合は、ソフトウェア アップグレード プロセスでアップグレードを取り消すこともできます。アップグレード用のソフトウェアをアクティブでないパーティションにインストールし、システムを再起動して新しいバージョンのソフトウェアに切り替えます。このプロセスの実行中に、アップグレードされたソフトウェアがアクティブなパーティションになり、現在のソフトウェアがアクティブでないパーティションになります。設定情報は、アクティブなパーティションにあるアップグレードしたバージョンの方に自動的に移行されます。

何らかの理由でアップグレードを取り消す場合は、システムを再起動し、前のバージョンのソフトウェアがインストールされているアクティブでないパーティションに切り替えることができます。ただし、この場合、ソフトウェアのアップグレード以降に変更した設定情報は失われます。

Cisco Unified CallManager バージョン 5.0(4) 以降、CAPF では証明書とキーの管理に Certificate Manager Infrastructure が使用されています。このため、バージョン 5.0(4) にアップグレードすると、CAPF のキーと証明書は自動的に再作成されます。その後 CTL Client アプリケーションを再実行し、CTL ファイルをアップグレードする必要があります。Cisco Unified CallManager で CAPF を使用方法については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

ローカルソースから

ローカル ディスク ドライブに挿入された CD または DVD からソフトウェアをインストールし、アップグレードプロセスを開始できます。



(注)

アップグレード プロセスを開始する前に、必ずシステム データのバックアップを行ってください。詳細については、『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

CD または DVD からソフトウェアをインストールまたはアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 アップグレード ファイルをダウンロードする場合は、次の手順を実行して CD または DVD を作成します。

- a. 必要なアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードします。



(注)

ファイルを unzip または untar しないでください。unzip または untar した場合、アップグレード ファイルをシステムが読み取れないおそれがあります。

- b. アップグレード ファイルを書き込み可能な CD または DVD にコピーします。

ステップ 2 コピーした CD または DVD を、アップグレードするローカル サーバのディスク ドライブに挿入します。



(注) アップグレード ファイルによっては、サイズが大きいため CD に書き込みきれず、DVD が必要になる場合があります。

ステップ 3 [ソフトウェアアップグレード] > [インストール/アップグレード] を選択します。

ステップ 4 ソフトウェアのソース場所として、DVD/CD を選択します。

ステップ 5 パス ファイルを CD または DVD 上のサブディレクトリに焼いた場合は、そのパスを [ディレクトリ (Directory、署名付きまたは未署名のファイル)] フィールドに入力します。

ステップ 6 アップグレード プロセスを続行するには、[次へ] をクリックします。

ステップ 7 インストールするアップグレード バージョンを選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 8 次のウィンドウで、送信されるファイル名やメガバイト数など、ダウンロードの進行状況を監視します。

ダウンロードが終了すると、[チェックサム (Checksum)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 このチェックサムの値と、Cisco.com に表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。



注意

アップグレード ファイルの信頼性と安全性が保証されるためには、これら 2 つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサムの値が一致しない場合は、最新版のアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードし、もう一度アップグレードを実行してください。

ステップ 10 チェックサムが一致することを確認したら、[次へ] をクリックしてソフトウェア アップグレードを続行します。

[警告] ウィンドウに現在のソフトウェア バージョンとアップグレードするソフトウェア バージョンが表示されます。

ステップ 11 ソフトウェア アップグレードを続行するには、[次へ] をクリックします。

[インストール後のオプション] ウィンドウが表示されます。

ステップ 12 アップグレードソフトウェアをインストールした後、アップグレードされたパーティションを自動的にリポートするかどうかを選択します。

- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを自動的にリポートするには、[アップグレードされたパーティションをリポート] を選択します。
- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを後日手動でリポートするには、[アップグレード後にリポートしない] を選択します。

ステップ 13 [アップグレード] をクリックします。

[アップグレードステータス] ウィンドウが表示され、アップグレード ログが表示されます。

■ ソフトウェアのアップグレードとインストール

ステップ 14 インストールが完了したら、[終了] をクリックします。

ステップ 15 システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[再起動] > [バージョンの切り替え] を選択します。

[ソフトウェアバージョンの切り替え] ウィンドウが表示されます。

ステップ 16 ソフトウェア バージョンを切り替えてシステムを再起動するには、[バージョンの切り替え] をクリックします。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

リモート ソースから

ネットワーク ドライブまたはリモート サーバからソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。



(注)

アップグレード プロセスを開始する前に、必ずシステム データのバックアップを行ってください。詳細については、『*Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

手順

ステップ 1 [ソフトウェアアップグレード] > [インストール / アップグレード] を選択します。

ステップ 2 ソフトウェアのソース場所として、[リモートファイルシステム] を選択します。

ステップ 3 必要に応じて、ソフトウェア アップグレードのディレクトリ名を入力します。

アップグレード ファイルが Linux または Unix サーバ上にある場合は、指定するディレクトリ パスの先頭にスラッシュを入力する必要があります。たとえば、アップグレード ファイルが patches ディレクトリにある場合は、`/patches` と入力する必要があります。アップグレード ファイルが Windows サーバ上にある場合は、システム管理者が適切なディレクトリ パスであることを確認します。

ステップ 4 下の表の説明に従って、必要なアップグレード情報を入力します。

フィールド	説明
リモート サーバ (Remote Server)	ファイルのダウンロード元のリモート サーバのホスト名または IP アドレス。
リモート ユーザ (Remote User)	リモート サーバに設定されているユーザの名前。
リモート パスワード (Remote Password)	リモート サーバのこのユーザに設定されているパスワード。
転送プロトコル (Transfer Protocol)	sftp または ftp を選択します。



(注) [リモートファイルシステム]を選択し、リモートサーバの設定フィールドを有効にする必要があります。

ステップ5 [次へ]をクリックします。

システムが使用可能なアップグレードをチェックします。

ステップ6 インストールするアップグレードまたはオプションを選択し、[次へ]をクリックします。

ステップ7 次のウィンドウで、送信されるファイル名やメガバイト数など、ダウンロードの進行状況を監視します。

ダウンロードが終了すると、[チェックサム (Checksum)] ウィンドウが表示されます。

ステップ8 このチェックサムの値と、Cisco.com に表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。



注意

アップグレードファイルの信頼性と安全性が保証されるためには、これら2つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサムの値が一致しない場合は、最新版のアップグレードファイルをCisco.comからダウンロードし、もう一度アップグレードを実行してください。

ステップ9 チェックサムが一致することを確認したら、[次へ]をクリックしてソフトウェア アップグレードを続行します。

[警告]ウィンドウに現在のソフトウェアバージョンとアップグレードするソフトウェアバージョンが表示されます。

ステップ10 ソフトウェア アップグレードを続行するには、[次へ]をクリックします。

[インストール後のオプション]ウィンドウが表示されます。

ステップ11 アップグレードソフトウェアをインストールした後、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするかどうかを選択します。

- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするには、[アップグレードされたパーティションをリブート]を選択します。
- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを後日手動でリブートするには、[アップグレード後にリブートしない]を選択します。

ステップ12 [アップグレード]をクリックします。

[アップグレードステータス]ウィンドウが表示され、アップグレード ログが表示されます。

ステップ13 インストールが完了したら、[終了]をクリックします。

ステップ 14 システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[再起動]>[バージョンの切り替え]を選択します。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

ダイヤルプランのインストール

ダイヤルプラン ファイルは、この章の初めの方で説明したソフトウェア アップグレードのインストール方法と同じ手順を使用して、ローカル ソースまたはリモート ソースからインストールできます。この手順の詳細については、[P.7-2 の「ソフトウェアのアップグレードとインストール」](#)を参照してください。

ダイヤルプラン ファイルをシステムにインストール後、Cisco Unified CallManager の管理ページにログインし、[コールルーティング]>[ダイヤルプランインストーラ]を選択して、ダイヤルプランのインストールを完了します。

ロケールのインストール

シスコは、ロケール固有のバージョンの Cisco Unified CallManager ロケール インストーラを www.cisco.com で提供しています。このロケール インストーラはシステム管理者がインストールするもので、これを使用すると、ユーザがサポートされているインターフェイスを使用するときに、選択した翻訳済みテキストまたはトーン（使用可能な場合）を表示 / 受信できます。

ユーザ ロケール

ユーザ ロケール ファイルは、電話機表示用の翻訳済みテキストとボイス プロンプト（使用可能な場合）、ユーザ アプリケーション、およびユーザが選択したロケールの Web ページを提供します。ユーザ専用のロケール インストーラは Web 上にあります。

ネットワーク ロケール

ネットワーク ロケール ファイルは、国固有の電話機トーンやゲートウェイ トーン（使用可能な場合）を提供します。ネットワーク専用のロケール インストーラは Web 上にあります。

1 つのロケール インストーラに複数のネットワーク ロケールが組み合わされている場合があります。



(注)

Cisco Media Convergence Server (MCS) またはシスコ承認の、顧客が提供するサーバは、複数のロケールをサポートできます。複数のロケール インストーラをインストールすることにより、ユーザは複数のロケールから選択できるようになります。

クラスタ内のすべてのサーバをリポートしないと、変更は有効になりません。クラスタ内のすべてのサーバへのインストールが終了するまで、サーバをリポートしないように強くお勧めします。通常の業務時間後にサーバをリポートして、コール処理の中断を最小限にとどめてください。

ロケールのインストール

ロケール ファイルは、この章の初めの方で説明したソフトウェア アップグレードのインストール方法と同じ手順を使用して、ローカル ソースまたはリモート ソースからインストールできます。この手順の詳細については、[P.7-2 の「ソフトウェアのアップグレードとインストール」](#)を参照してください。



(注)

新しくインストールしたロケールをアクティブにするには、サーバを再起動する必要があります。

インストールする必要のあるロケール ファイルについては、[P.7-8 の「ロケール ファイル」](#)を参照してください。複数のロケールをインストールしてから、サーバを再起動できます。

ロケール ファイル

ロケールをインストールする場合、次のファイルを両方ともインストールする必要があります。

- ユーザ ロケール ファイル：特定の言語と国に関する言語情報が格納されています。ファイル名の表記は、次のとおりです。

cm-locale-language-country-version.cop

- 複合ネットワーク ロケール ファイル：すべての国に対応した、さまざまなネットワーク項目（電話機のトーン、アナンシエータ、およびゲートウェイ トーンなど）の国固有のファイルが格納されています。複合ネットワーク ロケール ファイル名の表記は、次のとおりです。

cm-locale-combinednetworklocale-version.cop

エラー メッセージ

ロケール インストーラをアクティブ化するときに発生する可能性のあるエラー メッセージの説明については、表 7-1 を参照してください。エラーが発生した場合は、インストール ログにあるエラー メッセージを表示できます。

表 7-1 ロケール インストーラのエラー メッセージと説明

メッセージ	説明
[LOCALE] File not found: <language>_<country>_user_locale.csv, the user locale has not been added to the database.	データベースに追加するユーザ ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] File not found: <country>_network_locale.csv, the network locale has not been added to the database.	データベースに追加するネットワーク ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] CallManager CSV file installer installdb is not present or not executable	installdb と呼ばれる Cisco Unified CallManager アプリケーションが存在する必要があります。このアプリケーションは、CSV ファイルに格納されている情報を読み取り、この情報を適切に Cisco Unified CallManager データベースに適用します。このアプリケーションが見つからない場合、アプリケーションが Cisco Unified CallManager にインストールされていない（可能性は非常に低い）、削除された（可能性あり）、またはサーバに Cisco Unified CallManager がインストールされていない（可能性が最も高い）ことが考えられます。データベースに適切なレコードが格納されていないとロケールは機能しないため、ロケールのインストールは中止されます。

表 7-1 ロケール インストーラのエラー メッセージと説明 (続き)

メッセージ	説明
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maDialogs_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	このエラーは、システムがチェックサム ファイルの作成に失敗した場合に発生します。原因としては、Java 実行ファイルの /usr/local/thirdparty/java/j2sdk/jre/bin/java が存在しない、Java アーカイブ ファイルの /usr/local/cm/jar/cmutil.jar が存在しないか損傷している、Java クラスの com.cisco.ccm.util.Zipper が存在しないか損傷していることが考えられます。これらのエラーが発生した場合でも、ロケールは正常に機能します。ただし、Cisco Unified CallManager Assistant ではローカライズされた Cisco Unified CallManager Assistant ファイルの変更は検出されません。
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maMessages_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maGlobalUI_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt.Checksum.	
[LOCALE] Could not find /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt in order to update Unified CM Assistant locale information.	このエラーは、適切な場所にファイルが見つからない場合に発生します。原因としては、ビルド プロセスのエラーの可能性がります。
[LOCALE] Addition of <RPM-file-name> to the Cisco Unified CallManager database has failed!	このエラーは、ロケールのインストール時に発生した何らかの失敗が累積されたために発生し、終了条件を示しています。

Cisco Unified Communication 製品のサポート

Cisco Unified CallManager ロケール インストーラがサポートしている製品リストについては、次の URL から『Cisco IP Telephony Locale Installer for Cisco CallManager 5.1』を参照してください。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/callmgr-locale-51>

TFTP サーバファイルのアップロード

[TFTP サーバファイルのアップロード] オプションを使用すると、電話機が使用するさまざまなファイルをサーバにアップロードできます。アップロード可能なファイルには、カスタム呼出音、コールバックトーン、および背景画像などがあります。このオプションは、接続先の特定のサーバにのみファイルをアップロードするもので、クラスタ内の他のノードはアップグレードされません。

デフォルトでは、ファイルは tftp ディレクトリにアップロードされます。tftp ディレクトリのサブディレクトリにもファイルをアップロードできます。

クラスタ内に 2 台の Cisco TFTP サーバが設定されている場合、両方のサーバで次の手順を実行する必要があります。この手順を実行しても、ファイルがすべてのサーバに配信されるわけではなく、クラスタ内の 2 台の Cisco TFTP サーバにも配信されません。

TFTP サーバファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[**ソフトウェア アップグレード**] > [**TFTP サーバファイルのアップロード**] を選択します。

[TFTP サーバファイルのアップロード (TFTP Server File Upload)] ウィンドウが表示され、現在アップロードされているファイルの一覧が表示されます。

ステップ 2 ファイルをアップロードするには、[**参照**] をクリックし、アップロードするファイルを選択します。

ステップ 3 ファイルを tftp ディレクトリのサブディレクトリにアップロードするには、[**ファイルがアップロードされる tftp ディレクトリのサブディレクトリ (Subdirectory of the tftp directory where file will be uploaded)**] フィールドにサブディレクトリを入力します。

ステップ 4 アップロードを開始するには、[**ファイルのアップロード**] をクリックします。

ファイルのアップロードが成功すると、[**ステータス (Status)**] 領域に表示されます。

ステップ 5 ファイルをアップロードしたら、Cisco TFTP サービスを再起動します。



(注) 複数のファイルをアップロードする場合は、すべてのファイルをアップロードした後に Cisco TFTP サービスを 1 度だけ再起動してください。

サービスの再起動の詳細については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注) TFTP ディレクトリに存在するファイルを修正する場合は、CLI コマンドの `file list tftp` を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルを表示し、`file get tftp` を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルをコピーします。詳細については、[付録 A「コマンドライン インターフェイス」](#)を参照してください。



サービス

この章では、他のシステムに対する ping やリモート サポートの設定など、このオペレーティングシステムで使用可能なユーティリティ機能について説明します。

Ping

Ping ユーティリティ ウィンドウを使用すると、ネットワーク内の他のサーバに ping を実行できます。

他のシステムに ping を実行するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[サービス] > [PING] を選択します。

[リモートに対する PING(Ping remote)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ping を実行するシステムの IP アドレスまたはネットワーク名を入力します。

ステップ 3 ping 間隔を秒単位で入力します。

ステップ 4 パケットサイズを入力します。

ステップ 5 ping カウント、つまりシステムに ping を実行する回数を入力します。



(注) ping を複数指定すると、ping コマンドには ping の日時がリアルタイムで表示されなくなります。指定した回数の Ping が完了した後で日時が表示されます。

ステップ 6 IPSec を確認するかどうかを選択します。

ステップ 7 [PING] をクリックします。

[リモートに対する PING(Ping remote)] ウィンドウに ping 統計情報が表示されます。

リモートサポート

[リモートアカウントサポート]ウィンドウでは、シスコのサポート担当者が指定された時間にシステムにアクセスできるリモート アカウントを設定できます。

リモートサポート プロセスは次のようになっています。

1. お客様がリモート サポート アカウントを設定します。このアカウントには、シスコ担当者がアクセスできる期間について設定可能な有効期限が含まれています。
2. リモートサポート アカウントが設定されると、パスフレーズが作成されます。
3. お客様がシスコサポートに電話をかけ、リモートサポート アカウント名とパスフレーズを担当者に伝えます。
4. シスコサポート担当者がこのパスフレーズをデコーダプログラムに入力すると、パスフレーズからパスワードが作成されます。
5. シスコサポート担当者は復号されたパスワードを使用して、リモートサポート アカウントでお客様のシステムにログインします。
6. リモートサポート アカウントの有効期限が切れると、シスコサポート担当者はリモートサポート アカウントにアクセスできなくなります。

リモートサポートを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理]ウィンドウで、[サービス]>[リモートサポート]を選択します。

[リモートサポート (Remote Support)]ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** リモートサポート アカウントが設定されていない場合は、[追加]をクリックします。

- ステップ 3** リモートアカウントのアカウント名と、アカウントの有効期限を日数で入力します。



(注) アカウント名は、長さが6文字以上、すべて小文字の英字にしてください。

- ステップ 4** [保存]をクリックします。

リモートサポートの詳細ウィンドウが表示されます。詳細ウィンドウの各フィールドの説明については、表 8-1 を参照してください。

- ステップ 5** 作成されたパスフレーズを使用してシステムにアクセスするには、シスコ担当者にご連絡ください。

表 8-1 リモートサポートの詳細のフィールドと説明

フィールド	説明
デコードバージョン (Decode Version)	使用するデコーダのバージョンを示します。
アカウント名 (Account Name)	リモートサポート アカウントの名前を表示します。
有効期限 (Expires)	リモート アカウントへのアクセスが無効になる日時を表示します。
パスフレーズ (Pass Phrase)	作成されたパス フレーズを表示します。



コマンドライン インターフェイス

概要

この付録では、Cisco IPT Platform で基本的なオペレーティングシステム機能を実行するコマンドについて説明します。Cisco IPT プラットフォームの管理 GUI アプリケーションでもこれらの機能を使用できます。通常、コマンドライン インターフェイス (CLI) は、Cisco IPT プラットフォームの管理 インターフェイスの使用中に問題が発生した場合にだけ使用します。

CLI セッションの開始

Cisco IPT Platform CLI には、次の方法でリモートまたはローカルのロケーションからアクセスできます。

- Cisco IPT プラットフォームの管理 で使用するワークステーションなどの Web クライアントのワークステーションからは、SSH を使用して Cisco IPT Platform とセキュア接続を確立できます。
- Cisco IPT Platform CLI には、インストール中にモニタとキーボードから直接アクセスしたり、シリアル ポートに接続されているターミナル サーバを使用してアクセスしたりできます。この方法は、IP アドレスに問題がある場合に行ってください。

開始する前に

次の情報が設定された状態でインストールされていることを確認します。

- プライマリの IP アドレスとホスト名
- 管理者 ID
- パスワード

これらの情報は、Cisco IPT Platform にログインするために必要になります。

次の手順を実行して CLI セッションを開始します。

ステップ 1 アクセス方法に応じて次のいずれかを行います。

- リモートシステムから、SSH を使用して Cisco IPT Platform にセキュア接続します。SSH クライアントで次のように入力します。

```
ssh adminname@hostname
```

adminname には管理者 ID を指定し、*hostname* にはインストール中に定義したホスト名を指定します。

たとえば、`ssh admin@ipt-1` と指定します。

- 直接接続から、次のプロンプトが自動的に表示されます。

```
ipt-1 login:
```

`ipt-1` は、システムのホスト名を表します。

インストール中に定義した管理者 ID を入力します。

いずれの場合も、パスワードの入力を求められます。

ステップ 2 インストール中に定義したパスワードを入力します。

CLI のプロンプトが表示されます。このプロンプトは管理者 ID を表します。たとえば、次のように表示されます。

```
admin:
```

これで任意の CLI コマンドが使用できます。

CLI の基本

ここでは、コマンドライン インターフェイスを使用するための基本的なヒントを示します。

コマンドの補完

コマンドを補完するには、次のように Tab キーを使用します。

- コマンドの開始部分を入力し、Tab キーを押すと、コマンドが補完されます。たとえば、se と入力してから Tab キーを押すと、set が補完されます。
- コマンド名をすべて入力してから Tab を押すと、使用可能なすべてのコマンドまたはサブコマンドが表示されます。たとえば、set を入力し、Tab キーを押すと、すべての set のサブコマンドが表示されます。* は、このコマンドにサブコマンドがあることを示します。
- コマンドに達してから Tab キーを押し続けると、現在のコマンドラインが繰り返されます。これ以外に追加の拡張はありません。

コマンドのヘルプの取得

任意のコマンドのヘルプを、次の 2 種類の形式で取得できます。

- コマンドの定義と使用例が含まれている詳細ヘルプ
- コマンドの構文のみが含まれている簡易クエリー ヘルプ

手順

CLI プロンプトから詳細なヘルプを取得するには、次のように入力します。

help *command*

command には、コマンド名またはコマンドとパラメータを指定します。例 1 を参照してください。

CLI プロンプトからコマンド構文のみを照会するには、次のように入力します。

command?

command には、コマンド名またはコマンドとパラメータを指定します。例 2 を参照してください。



set などのメニュー コマンドの後に ? を入力すると、Tab キーを押した場合と同じ結果が得られ、使用可能なコマンドがリスト表示されます。

例 1 詳細なヘルプの例

```
admin:help file list activelog

activelog help:
This will list active logging files

options are:
page      - pause output
detail    - show detailed listing
reverse   - reverse sort order
date      - sort by date
size      - sort by size

file-spec can contain '*' as wildcards

Example:
admin:file list activelog platform detail
02 Dec,2004 12:00:59      <dir>   drf
02 Dec,2004 12:00:59      <dir>   log
16 Nov,2004 21:45:43      8,557   enGui.log
27 Oct,2004 11:54:33     47,916  startup.log
dir count = 2, file count = 2
```

例 2 クエリーの例

```
admin:file list activelog?
Syntax:
file list activelog file-spec [options]
file-spec  mandatory   file to view
options    optional     page|detail|reverse|[date|size]
```

CLI セッションの終了

CLI プロンプトで **quit** を入力します。リモートからログインしている場合は、ログオフすると ssh セッションが終了します。ローカルからログインしている場合は、ログオフするとログイン プロンプトに戻ります。

Cisco IPT Platform の CLI コマンド

次の表に Cisco Unified Communications Operating System および Cisco Unified CallManager で使用可能な CLI コマンドのリストと説明を示します。

File コマンド

次の表に CLI の File コマンドのリストと説明を示します。

表 A-1 file コマンド


コマンド	パラメータとオプション	説明
file check	<p>[<i>detection-size-kb</i>]</p> <p>ここで</p> <p><i>detection-size-kb</i> には、ファイルの変更をコマンドが表示するのに必要な最小ファイル サイズの変更を指定します。</p> <p>デフォルトの最小サイズ：100 KB</p> <p>コマンドから、システムのパフォーマンスに影響する可能性があることがユーザに通知され、続行するかどうかの確認が求められます。</p> <p> 警告 このコマンドを実行するとシステムのパフォーマンスに影響する可能性があるため、シスコではこのコマンドはピーク時以外の時間帯に実行することをお勧めしています。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>/usr ディレクトリ ツリーのファイルやディレクトリが、最後のフレッシュインストールまたはアップグレード以降に、追加、削除、またはサイズ変更されていないかを調べ、結果を表示します。結果には、削除されたファイルと新たに追加されたファイルの両方が表示されます。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>

表 A-1 file コマンド (続き)


コマンド	パラメータとオプション	説明
file delete	<p><code>activelog directory/filename [detail] [noconfirm]</code></p> <p><code>inactivelog directory/filename [detail] [noconfirm]</code></p> <p><code>install directory/filename [detail] [noconfirm]</code></p> <p><code>tftp directory/filename [detail]</code></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>activelog</code> は、アクティブな側のログを指定します。 • <code>inactivelog</code> はアクティブでない側のログを指定します。 • <code>install</code> はインストール ログを指定します。 • <code>tftp</code> は TFTP ファイルを指定します。 <p><code>filename</code> にはワイルドカード文字の * を使用できます。</p> <p> 注意 障害復旧システムでの使用時を除くと、削除したファイルは復旧できない場合があります。</p> <p>アクティブでない側で TFTP データ ファイルを削除すると、アクティブでない側にバージョンを切り替えるときにファイルを手動で復元しなければならない場合があります。</p> <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>detail</code> : 削除したファイル名を削除した日付 / 時刻とともにリスト表示します。 • <code>noconfirm</code> : 削除のたびに確認を求めずにファイルを削除します。 	<p>1 つまたは複数のファイルを削除します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p> <p>例 : インストール ログの削除</p> <pre>file delete install install.log</pre>
file dump	<p><code>activelog directory/filename [detail] [hex]</code></p> <p><code>inactivelog directory/filename [detail] [hex]</code></p> <p><code>install directory/filename [detail] [hex]</code></p> <p><code>tftp directory/filename [detail] [hex]</code></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>activelog</code> は、アクティブな側のログを指定します。 • <code>inactivelog</code> はアクティブでない側のログを指定します。 • <code>install</code> はインストール ログを指定します。 • <code>tftp</code> は TFTP ファイルを指定します。 <p><code>filename</code> には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の * を使用できます。</p> <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>detail</code> : 日付と時刻とともにリストします。 • <code>hex</code> : 出力を 16 進表記で表示します。 	<p>ファイルの内容を 1 回に 1 ページずつ画面にダンプします。</p> <p>コマンド特権レベル : ログは 1、TFTP ファイルは 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p> <p>例 : file _cdrIndex.idx の内容をダンプ</p> <pre>file dump activelog cm/cdr/_cdrIndex.idx</pre>

表 A-1 file コマンド (続き)

コマンド	パラメータとオプション	説明
file get	<p>activelog <i>directory/filename</i> [reltime] [abstime] [match] [recurs]</p> <p>inactivelog <i>directory/filename</i> [reltime] [abstime] [match] [recurs]</p> <p>install <i>directory/filename</i> [reltime] [abstime] [match] [recurs]</p> <p>tftp <i>directory/filename</i> [reltime] [abstime] [match] [recurs]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • activelog は、アクティブな側のログを指定します。 • inactivelog はアクティブでない側のログを指定します。 • install はインストール ログを指定します。 • tftp は TFTP ファイルを指定します。 <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • abstime : 絶対表記による時間の期間。次の形式で指定します。 <i>hh:mm:MM/DD/YY hh:mm:MM/DD/YY</i> • reltime : 相対表記による時間の期間。次の形式で指定します。 <i>分 時 日 週 月 <値></i> • match : ファイル名を特定のストリングと照合します。次の構文で指定します。 <string value> • recurs : サブディレクトリのファイルを含め、すべてのファイルを取得します。 <p>コマンドで指定のファイルが識別された後、SFTP ホスト、ユーザ名、パスワードの入力を求められます。</p>	<p>SFTP を介して別のシステムにファイルを送信します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p> <p>例 1 : activelog オペレーティングシステムでストリング「plat」に一致するすべてのファイルを取得</p> <pre>file get activelog platform match plat</pre> <p>例 2 : 特定の期間に記録されたすべてのオペレーティングシステム ログ ファイルを取得</p> <pre>file get activelog platform/log abstime 18:00:9/27/200 18:00:9/28/2005</pre>

表 A-1 file コマンド (続き)


コマンド	パラメータとオプション	説明
file list	<p><code>activelog directory [page] [detail] [reverse] [date size]</code></p> <p><code>inactivelog directory [page] [detail] [reverse] [date size]</code></p> <p><code>install directory [page] [detail] [reverse] [date size]</code></p> <p><code>tftp directory [page] [detail] [reverse] [date size]</code></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>activelog</code> は、アクティブな側のログを指定します。 • <code>inactivelog</code> はアクティブでない側のログを指定します。 • <code>install</code> はインストール ログを指定します。 • <code>tftp</code> は TFTP ファイルを指定します。 <p> (注) ディレクトリ名には、ディレクトリ 1 つが解決される場合限り、ワイルドカード文字の * を指定できます。</p> <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>detail</code> : 日付 / 時刻とともに詳細なリストを表示します。 • <code>date</code> : 日付でソートします。 • <code>size</code> : ファイル サイズでソートします。 • <code>reverse</code> : ソート順を逆転します。 • <code>page</code> : 出力を 1 回に 1 画面ずつ表示します。 	<p>使用可能なログ ディレクトリにあるログ ファイルをリスト表示します。</p> <p>コマンド特権レベル: ログは 1、TFTP ファイルは 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無: あり</p> <p>例 1 : オペレーティング システムのログ ファイルを詳細情報とともにリスト表示</p> <pre>file list activelog platform/log page detail</pre> <p>例 2 : CDR リポジトリのディレクトリをリスト表示</p> <pre>file list activelog cm/cdr_repository</pre> <p>例 3 : 指定のディレクトリにある CDR ファイルをサイズでリスト表示</p> <pre>file list activelog cm/cdr_repository/processed/20050812 size</pre>

表 A-1 file コマンド (続き)





コマンド	パラメータとオプション	説明
file search	<p>activelog <i>directory/filename reg-exp</i> [abstime <i>hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy</i>] [ignorecase] [retime {days hours minutes} <i>timevalue</i>]</p> <p>inactivelog <i>directory/filename reg-exp</i> [abstime <i>hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy</i>] [ignorecase] [retime {days hours minutes} <i>timevalue</i>]</p> <p>install <i>directory/filename reg-exp</i> [abstime <i>hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy</i>] [ignorecase] [retime {days hours minutes} <i>timevalue</i>]</p> <p>tftp <i>directory/filename reg-exp</i> [abstime <i>hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy</i>] [ignorecase] [retime {days hours minutes} <i>timevalue</i>]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • activelog は、アクティブな側のログを指定します。 • inactivelog はアクティブでない側のログを指定します。 • install はインストール ログを指定します。 • tftp は TFTP ファイルを指定します。 • <i>reg-exp</i> は正規表現であることを表します。 <p> (注) ワイルドカード文字の * を使用してファイル名のすべてまたは一部を表すことができます。</p> <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • abstime : 検索するファイルを作成時刻で指定します。開始時刻と終了時刻を入力します。 • days hours minutes : ファイルの生存時間の表記を、日数、時間数、分数のいずれにするか指定します。 • ignorecase : 検索時に大文字と小文字を区別しません。 • retime : 検索するファイルを作成時刻で指定します。検索するファイルの生存時間を入力します。 • <i>hh:mm:ss mm/dd/yyyy</i> : 「時:分:秒 月/日/年」の形式による絶対時間です。 • <i>timevalue</i> : 検索するファイルの生存時間です。この値の単位は、{days hours minutes} オプションで指定します。 	<p>ログの内容を検索し、一致する行を 1 回に 1 ページずつ表示します。</p> <p>検索用語は正規表現の形式で記述します。正規表現とは、検索パターンを記述した特殊なテキストストリングです。</p> <p>1 ファイルでのみこの検索用語が見つかった場合、ファイル名が出力の最初に表示されます。複数のファイルでこの検索用語が見つかった場合、出力の各行が、一致した行を含むファイルの名前で始まります。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p> <p>例</p> <pre>file search activelog platform/log/platform.log Err[a-z] ignorecase</pre>

表 A-1 file コマンド (続き)

コマンド	パラメータとオプション	説明
file tail	<p><code>activelog directory/filename [detail] [hex] [lines]</code></p> <p><code>inactivelog directory/filename [detail] [hex] [lines]</code></p> <p><code>install directory/filename [detail] [hex] [lines]</code></p> <p><code>tftp directory/filename [detail] [hex] [lines]</code></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>activelog</code> は、アクティブな側のログを指定します。 • <code>inactivelog</code> はアクティブでない側のログを指定します。 • <code>install</code> はインストール ログを指定します。 • <code>tftp</code> は TFTP ファイルを指定します。 <p> 注意 ファイル名には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の * を使用できます。</p> <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>detail</code> : 日付 / 時刻とともに詳細なリストを表示します。 • <code>hex</code> : 16 進表記のリストを表示します。 • <code>lines</code> : 表示する行数です。 	<p>ログ ファイルの末尾を表示 (最後の数行を出力) します。</p> <p>コマンド特権レベル: ログは 1、TFTP ファイルは 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無: あり</p> <p>例: オペレーティングシステムの CLI ログ ファイルの末尾を表示</p> <pre>file tail activelog platform/log/cli00001.log</pre>
file view	<p><code>activelog directory/filename</code></p> <p><code>inactivelog directory/filename</code></p> <p><code>install directory/filename</code></p> <p><code>tftp directory/filename</code></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>activelog</code> は、アクティブな側のログを指定します。 • <code>inactivelog</code> はアクティブでない側のログを指定します。 • <code>install</code> はインストール ログを指定します。 • <code>tftp</code> は TFTP ファイルを指定します。 <p> (注) ファイル名には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の * を使用できます。</p> <p> 注意 このコマンドをバイナリ ファイルの表示に使用しないでください。端末セッションが破損する可能性があります。</p>	<p>ファイルの内容を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル: 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無: あり</p> <p>例 1: インストール ログの表示</p> <pre>file view install install.log</pre> <p>例 2: 特定の CDR ファイルの表示</p> <pre>file view activelog /cm/cdr_repository/processed/2005801 2/{filename}</pre>

Show コマンド

次の表に CLI の Show コマンドのリストと説明を示します。

表 A-2 Show コマンド


コマンド	パラメータとオプション	説明
show account	なし	<p>マスター管理者アカウントを除き、現在の管理者アカウントをリスト表示します。</p> <p>コマンド特権レベル：4</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>
show cert	<p><i>own filename</i></p> <p><i>trust filename</i></p> <p>list {<i>own</i> <i>trust</i>}</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>filename</i> は認証ファイルの名前を表します。 <i>own</i> は所有する証明書を指定します。 <i>trust</i> は信頼できる証明書を指定します。 <i>list</i> は証明書信頼リストを指定します。 <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>証明書の内容と証明書信頼リストを表示します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p> <p>例：所有する証明書信頼リストの表示</p> <pre>show cert list own</pre>
show firewall	<p>list [<i>detail</i>] [<i>page</i>] [<i>file filename</i>]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>detail</i>：システムで使用可能なすべてのデバイスに関する詳細な統計情報を表示します。 <i>page</i>：出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。 <i>file filename</i>：情報をファイルに出力します。 <p> (注) <i>file</i> オプションは情報を <code>platform/cli/<i>filename</i>.txt</code> に保存します。ファイル名に文字「.」が含まれていないことを確認してください。</p>	<p>サーバのシステム動作について表示します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>
show hardware	なし	<p>プラットフォームのハードウェアに関する次の情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> プラットフォーム名 シリアル番号 BIOS のビルド レベル BIOS の製造業者 アクティブ プロセッサ RAID コントローラの状態 <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>

表 A-2 Show コマンド (続き)

コマンド	パラメータとオプション	説明
show ipsec	<p>policy</p> <p>association <i>policy</i></p> <p>information <i>policy association</i></p> <p>status</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • policy はノードのすべての IPsec ポリシーを表示します。 • association はポリシーのアソシエーション リストとステータスを表示します。 • information はポリシーのアソシエーションの詳細とステータスを表示します。 • status は、システムに定義されているすべての IPsec トンネルのステータスを表示します。 • <i>policy</i> は特定の IPsec ポリシーの名前を表します。 • <i>association</i> はアソシエーション名を表します。 <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>IPsec ポリシーとアソシエーションの情報を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p> <p>例：IPsec ポリシーの表示</p> <pre>show ipsec policy</pre>
show logins	<p><i>number</i></p> <p>ここで</p> <p><i>number</i> に表示するログインの直近の数を指定します。デフォルトは 20 です。</p>	<p>最近のサーバへのログインをリスト表示します。</p>
show myself	<p>なし</p>	<p>現在のアカウントに関する情報を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>

表 A-2 Show コマンド (続き)

コマンド	パラメータとオプション	説明
show network	<p>eth0 [detail]</p> <p>failover [detail] [page]</p> <p>route [detail]</p> <p>status [detail] [listen] [process] [all] [nodns] [search stext]</p> <p>ip_conntrack</p> <p>max_ip_conntrack</p> <p>all [detail]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • eth0 はイーサネット 0 を指定します。 • failover はネットワークの耐障害性情報を指定します。 • route はネットワークのルーティング情報を指定します。 • status はアクティブなインターネット接続を指定します。 • ip_conntrack は ip_conntrack 使用状況の情報を指定します。 • max_ip_conntrack は max_ip_conntrack 情報を指定します。 • all はすべての基本ネットワーク情報を指定します。 <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • detail : 追加情報を表示します。 • page : 情報を 1 回に 1 ページずつ表示します。 • listen : リスニング ソケットのみ表示します。 • process : 各ソケットが属するプログラムのプロセス ID と名前を表示します。 • all : リスニング ソケットと非リスニング ソケットの両方を表示します。 • nodns : DNS 情報を除く数字アドレスを表示します。 • search stext : 出力中の stext を検索します。 	<p>ネットワーク情報を表示します。</p> <p>eth0 パラメータのイーサネット ポート 0 設定には、DHCP と DNS の設定とオプションが含まれます。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p> <p>例 : アクティブなインターネット接続の表示</p> <pre>show network status</pre>

表 A-2 Show コマンド (続き)


コマンド	パラメータとオプション	説明
show open	<p>files [all] [process <i>processID</i>] [regexp <i>reg_exp</i>]</p> <p>ports [all] [regexp <i>reg_exp</i>]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> files はシステムのオープン ファイルを表示します。 ports はシステムのオープン ポートを表示します。 <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> all : オープンしているすべてのファイルとポートを表示します。 process : 指定のプロセスに属するオープン ファイルを表示します。 <i>processID</i> : プロセスを指定します。 regexp : 指定の正規表現に一致するオープン ファイルまたはオープン ポートを表示します。 <i>reg_exp</i> : 正規表現 	<p>システムのオープン ファイルとオープン ポートを表示します。</p>
show packages	<p>active <i>name</i> [page]</p> <p>inactive <i>name</i> [page]</p> <p>ここで</p> <p><i>name</i> はパッケージ名を表します。</p> <p>アクティブまたは非アクティブなすべてのパッケージを表示するには、ワイルドカード文字の * を使用します。</p> <p>オプション</p> <p>page : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。</p>	<p>インストール パッケージの名前とバージョンを表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show perf	<p>counterhelp <i>class-name counter-name</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>class-name</i> はカウンタを含むクラス名を表します。 <i>counter-name</i> は表示するカウンタを表します。 <p> (注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>指定の perfmon カウンタについて説明するテキストを表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show perf	<p>list categories</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>perfmon システムのすべてのカテゴリをリスト表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>

表 A-2 Show コマンド (続き)

コマンド	パラメータとオプション	説明
show perf	<p>list classes [cat <i>category</i>] [detail]</p> <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • detail : 詳細情報を表示します。 • cat <i>category</i> : 指定のカテゴリの perfmon クラスを表示します。 	<p>perfmon クラスまたはオブジェクトをリスト表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show perf	<p>list counters <i>class-name</i> [detail]</p> <p>ここで</p> <p><i>class-name</i> はカウンタをリスト表示する perfmon クラス名を表します。</p> <p> (注) クラス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。</p> <p>オプション</p> <p>detail : 詳細情報を表示します。</p>	<p>指定した perfmon クラスの perfmon カウンタをリスト表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show perf	<p>list instances <i>class-name</i> [detail]</p> <p>ここで</p> <p><i>class-name</i> はカウンタをリスト表示する perfmon クラス名を表します。</p> <p> (注) クラス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。</p> <p>オプション</p> <p>detail : 詳細情報を表示します。</p>	<p>指定した perfmon クラスの perfmon インスタンスをリスト表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show perf	<p>query class <i>class-name</i> [,<i>class-name</i> ...]</p> <p>ここで</p> <p><i>class-name</i> は照会する perfmon クラスを指定します。</p> <p>1 コマンドにつき最大 5 クラスまで指定できます。</p> <p> (注) クラス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>perfmon クラスを照会してすべてのインスタンスと各インスタンスのカウンタ値を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>

表 A-2 Show コマンド (続き)

コマンド	パラメータとオプション	説明
show perf	<p>query counter <i>class-name counter-name</i> [,<i>counter-name</i>...]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>class-name</i> は照会する perfmon クラスを指定します。 <i>counter-name</i> は表示するカウンタを指定します。 <p>1 コマンドにつき最大 5 カウンタまで指定できます。</p> <p> (注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>指定したカウンタを照会し、すべてのインスタンスのカウンタ値を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>
show perf	<p>query instance <i>class-name instance-name</i> [,<i>instance-name</i>...]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>class-name</i> は照会する perfmon クラスを指定します。 <i>instance-name</i> は表示する perfmon インスタンスを指定します。 <p>1 コマンドにつき最大 5 インスタンスまで指定できます。</p> <p> (注) クラス名またはインスタンス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>指定したインスタンスを照会し、そのすべてのカウンタ値を表示します。</p> <p> (注) このコマンドは、個別の perfmon クラスには適用されません。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>
show perf	<p>query path <i>path-spec</i> [,<i>path-spec</i>...]</p> <p><i>path-spec</i> は、次のように定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> インスタンスベースの perfmon クラスの場合、<i>path-spec</i> を <i>class-name(instance-name)\counter-name</i> として指定します。 非インスタンスベースの perfmon クラス (個別) の場合、<i>path-spec</i> を <i>class-name\counter-name</i> として指定します。 <p>1 コマンドにつき最大 5 パスまで指定できます。</p> <p> (注) パス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>指定した perfmon パスを照会します。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p> <p>例</p> <pre>show perf query path "Cisco Phones(phone-0)\CallsAttempted", "Cisco Unified CallManager\TlChanne lsActive"</pre>

表 A-2 Show コマンド (続き)


コマンド	パラメータとオプション	説明
show process	<p>load [cont] [clear] [noidle] [num <i>xx</i>] [thread] [cpu] [memory] [time] [specified] [page]</p> <p>list [page] [short] [detail] [thread] [fd] [cont] [clear] [process id <i>id</i>] [argument id <i>id</i>] [owner name <i>name</i>]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> load はアクティブな各プロセスの CPU の負荷を表示します。 list はすべてのプロセスを表示します。 <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> cont : 引き続きコマンドを続行します。 clear : 出力の表示前に画面をクリアします。 noidle : アイドル プロセスまたはゾンビ プロセスを無視します。 num <i>xx</i> : 表示するプロセスの数を設定します(デフォルト = 10、 all = すべてのプロセス)。 thread : スレッドを表示します。 cpu : 出力を CPU の使用状況で表示します。 memory : 出力をメモリの使用状況でソートします。 short : 短いリストで表示します。 time : 出力を時間の使用状況でソートします。 page : 1 回に 1 ページずつ表示します。 detail : 詳細をリスト表示します。 process id <i>id</i> : 特定のプロセス番号またはコマンド名のみ表示します。 argument name <i>name</i> : 引数名を持つ特定のプロセスのみ表示します。 thread : リスト表示にスレッド プロセスを含めます。 fd : プロセスに関連付けられているファイル記述子を表示します。 	<p>プロセスと負荷に関する情報を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p> <p>例 : プロセスの詳細を 1 回に 1 ページずつ表示</p> <pre>show process list detail page</pre>
show registry	<p>system component [<i>name</i>] [page]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> system はレジストリのシステム名を表します。 component はレジストリのコンポーネント名を表します。 name は表示するパラメータの名前を表します。 <p> (注) すべての項目を表示するには、ワイルドカード文字の * を入力します。</p> <p>表示オプション</p> <p>page : 1 回に 1 ページずつ表示します。</p>	<p>レジストリの内容を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p> <p>例 : cm システムの dbl/sdi コンポーネントの内容を表示します。</p> <pre>show registry cm dbl/sdi</pre>

表 A-2 Show コマンド (続き)



コマンド	パラメータとオプション	説明
show risdb	<p>list [<i>file filename</i>]</p> <p>query <i>table1 table2 table3 ...</i>[<i>file filename</i>]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • list は Realtime Information Service (RIS) データベースでサポートされるテーブルを表示します。 • query は RIS テーブルの内容を表示します。 <p>オプション</p> <p>file filename : 情報をファイルに出力します。</p> <p> (注) file オプションは情報を platform/cli/<i>filename.txt</i> に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。</p>	<p>RIS データベース テーブルに関する情報を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p> <p>例 : RIS データベース テーブルのリスト表示</p> <pre>show risdb list</pre>
show smtp	なし	<p>SMTP ホストの名前を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show stats	<p>io [<i>kilo</i>] [<i>detail</i>] [<i>page</i>] [<i>file filename</i>]</p> <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • kilo : 統計をキロバイトで表示します。 • detail : システムで使用可能なすべてのデバイスに関する詳細な統計情報を表示し、kilo オプションを上書きします。 • file filename : 情報をファイルに出力します。 <p> (注) file オプションは情報を platform/cli/<i>filename.txt</i> に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。</p>	<p>システムの IO 統計情報を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show status	なし	<p>次の基本的なプラットフォーム ステータスを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 • 日付 • 時間帯 • ロケール • 製品バージョン • プラットフォームのバージョン • CPU の使用状況 • メモリとディスクの使用状況 <p>コマンド特権レベル : 0</p>

表 A-2 Show コマンド (続き)


コマンド	パラメータとオプション	説明
show tech	all [page] [file filename] オプション <ul style="list-style-type: none"> page : 1 回に 1 ページずつ表示します。 file filename : 情報をファイルに出力します。  (注) file オプションは情報を platform/cli/filename.txt に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。	すべての show tech コマンドの出力を組み合わせて表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	ccm_service オプション なし	システムで実行可能なすべての Cisco Unified CallManager サービスに関する情報を表示します。 コマンド特権レベル : 0 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	database オプション なし	データベース全体の CSV ファイルを作成します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	dbinuse オプション なし	使用中のデータベースを表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	dbschema オプション なし	データベース スキーマを CSV ファイルに表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	devdefaults オプション なし	デバイスのデフォルト テーブルを表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	gateway オプション なし	データベースからゲートウェイ テーブルを表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	locales オプション なし	デバイス、デバイス プール、エンドユーザのロケール情報を表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり


表 A-2 Show コマンド (続き)

コマンド	パラメータとオプション	説明
show tech	network [page] [file filename] オプション <ul style="list-style-type: none"> page : 1 回に 1 ページずつ表示します。 file filename : 情報をファイルに出力します。  (注) file オプションは情報を platform/cli/filename.txt に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。	サーバのネットワーク動作について表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	notify オプション なし	データベース変更通知モニタを表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	params all オプション なし	すべてのデータベース パラメータを表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	params enterprise オプション なし	データベースのエンタープライズ パラメータを表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	params service オプション なし	データベース サービス パラメータを表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	procedures オプション なし	データベースに関する実行中の手順を表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	routepatterns オプション なし	システムに設定されているルート パターンを表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり
show tech	routeplan オプション なし	システムに設定されているルート プランを表示します。 コマンド特権レベル : 1 アップグレード時の許可の有無 : あり

表 A-2 Show コマンド (続き)

コマンド	パラメータとオプション	説明
show tech	<p>runtime [page] [file filename]</p> <p>オプション</p> <p>page : 1 回に 1 ページずつ表示します。</p> <p>file filename : 情報をファイルに出力します。</p> <p> (注) file オプションは情報を platform/cli/filename.txt に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。</p>	<p>サーバのランタイム動作について表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show tech	<p>systables</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>sysmaster データベースのすべてのテーブルの名前を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show tech	<p>system [page] [file filename]</p> <p>オプション</p> <p>page : 1 回に 1 ページずつ表示します。</p> <p>file filename : 情報をファイルに出力します。</p> <p> (注) file オプションは情報を platform/cli/filename.txt に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。</p>	<p>サーバのシステム動作について表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show tech	<p>table table_name [page] [csv]</p> <p>ここで</p> <p>table_name は、表示するテーブルの名前を表します。</p> <p>オプション</p> <p>page : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。</p> <p>csv : 出力をカンマ区切り形式ファイルに送信します。</p>	<p>指定のデータベース テーブルの内容を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show tech	<p>triggers</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>テーブル名とこれらのテーブルに関連付けられているトリガーを表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show tech	<p>version [page]</p> <p>オプション</p> <p>Page : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。</p>	<p>インストールしたコンポーネントのバージョンを表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>

表 A-2 Show コマンド (続き)

コマンド	パラメータとオプション	説明
show timezone	<p>config</p> <p>list [page]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> config は現在の時間帯の設定を表示します。 list は使用可能な時間帯を表示します。 <p>オプション</p> <p>page : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。</p>	<p>時間帯情報を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show trace	<p>[task_name]</p> <p>ここで</p> <p>task_name は、トレース情報を表示するタスクの名前を表します。</p> <p> (注) パラメータを入力しない場合、使用可能なタスクのリストが返されます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>特定のタスクのトレース情報を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p> <p>例 : cdp のトレース情報の表示</p> <pre>show trace cdp</pre>
show version	<p>active</p> <p>inactive</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>アクティブまたは非アクティブなパーティションで使用するソフトウェアのバージョンを表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show web-security	なし	<p>現在の Web セキュリティ証明書の内容を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
show workingdir	なし	<p>activelog、inactivelog、install、TFTP の現在の作業ディレクトリを取得します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>

Set コマンド

次の表に CLI の Set コマンドのリストと説明を示します。

表 A-3 Set コマンド

コマンド	パラメータ	説明
set account	<p><i>name</i></p> <p>ここで</p> <p><i>name</i> は新規アカウントのユーザ名を表します。</p> <p> (注) ユーザ名を入力すると、新規アカウントの特権レベルとパスワードの入力を求められます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>オペレーティング システムの新規アカウントを設定します。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set cert	<p>regen <i>unit-name</i></p> <p>ここで</p> <p><i>unit-name</i> は再生成する証明書の名前を表します。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>指定したセキュリティ証明書を再生成できます。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set commandcount	<p>{enable disable}</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>CLI のコマンド プロンプトを変更し、実行済みの CLI コマンド数を表示するようにします。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>
set ipsec	<p>policy {ALL <i>policy-name</i>}</p> <p>association <i>policy-name</i> {ALL <i>association-name</i>}</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>policy-name</i> は IPsec ポリシーを表します。 <i>association-name</i> は IPsec アソシエーションを表します。 <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>IPsec のポリシーとアソシエーションを設定できます。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set logging	<p>{enable disable}</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>ロギングをイネーブルまたはディセーブルにできます。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>

表 A-3 Set コマンド (続き)



コマンド	パラメータ	説明
set network	<p>dhcp eth0 {enable disable}</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> eth0 は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。 <p>このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。</p> <p> 注意 続行する場合は、このコマンドによりシステムが再起動します。また、シスコでは、IP アドレスの変更時はすべてのノードの再起動を推奨しています。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>イーサネット インターフェイス 0 の DHCP をイネーブルまたはディセーブルにします。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set network	<p>dns {primary secondary} ip-address</p> <p>ここで</p> <p>ip-address はプライマリまたはセカンダリの DNS サーバの IP アドレスを表します。</p> <p>このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。</p> <p> 注意 続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>プライマリまたはセカンダリの DNS サーバの IP アドレスを設定します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set network	<p>dns options [timeout seconds] [attempts number] [rotate]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> timeout は DNS 要求のタイムアウトを設定します。 attempts は終了するまでの DNS 要求の試行回数を設定します。 rotate は設定されている DNS サーバ間でシステムを巡回させることで負荷を分散します。 seconds は DNS のタイムアウト期間を秒数で指定します。 number は試行回数を指定します。 <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>DNS オプションを設定します。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>

表 A-3 Set コマンド (続き)

コマンド	パラメータ	説明
set network	<p>domain <i>domain-name</i></p> <p>ここで</p> <p><i>domain-name</i> は割り当てるシステム ドメインを表します。</p> <p>このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。</p> <p> 注意 続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>システムのドメイン名を設定します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set network	<p>failover {enable disable}</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • enable はネットワークの耐障害性をイネーブルにします。 • disable はネットワークの耐障害性をディセーブルにします。 <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>ネットワークの耐障害性をイネーブルまたはディセーブルにします。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set network	<p>gateway <i>ip-address</i></p> <p>ここで</p> <p><i>ip-address</i> は割り当てるネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを表します。</p> <p>このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。</p> <p> 注意 続行する場合は、このコマンドによりシステムが再起動します。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを設定します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>

表 A-3 Set コマンド (続き)



コマンド	パラメータ	説明
set network	<p>ip eth0 ip-address ip-mask</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • eth0 は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。 • ip-address は割り当てる IP アドレスを表します。 • ip-mask は割り当てる IP マスクを表します。 <p>このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。</p> <p> 注意 続行する場合は、このコマンドによりシステムが再起動します。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>イーサネット インターフェイス 0 の IP アドレスを設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set network	<p>mtu mtu_max</p> <p>ここで</p> <p>mtu_max は最大 MTU 値を指定します。</p> <p>このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。</p> <p> 注意 続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>最大 MTU 値を設定します。</p>
set network	<p>max_ip_conntrack ip_conntrack_max</p> <p>ここで</p> <p>ip_conntrack_max は ip_conntrack_max の値を指定します。</p>	<p>ip_conntrack_max 値を設定します。</p>

表 A-3 Set コマンド (続き)




コマンド	パラメータ	説明
set network	<p>nic eth0 [auto en dis] [speed 10 100] [duplex half full]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • eth0 は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。 • auto は自動ネゴシエーションを、イネーブルとディセーブルのどちらかに指定します。 • speed はイーサネット接続の速度を、10 Mbps と 100 Mbps のどちらかに指定します。 • duplex は半二重または全二重に指定します。 <p>このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。</p> <p> (注) 1 回にイネーブルにできるアクティブな NIC は 1 つのみです。</p> <p> 注意 続行する場合は、このコマンドにより NIC のリセット中に一時的にネットワークが切断されます。</p> <p>オプション なし</p>	<p>イーサネット インターフェイス 0 のプロパティを設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set network	<p>pmtud [enable disable]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • enable は Path MTU Discovery (PMTUD; パス MTU ディスカバリ) をイネーブルにします。 • disable は Path MTU Discovery をディセーブルにします。 <p>このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。</p> <p> 注意 続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。</p> <p>オプション なし</p>	<p>Path MTU Discovery をイネーブルまたはディセーブルにします。</p>
set network	<p>status eth0 {up down}</p> <p>ここで</p> <p>eth0 は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。</p> <p>オプション なし</p>	<p>イーサネット 0 のステータスを up または down に設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>

表 A-3 Set コマンド (続き)




コマンド	パラメータ	説明
set password	<p>{admin security}</p> <p>ユーザに新旧 2 種類のパスワードを入力するように要求します。</p> <p> (注) パスワードには少なくとも 6 文字が必要です。また、システムでセキュリティの強度が確認されず。</p>	<p>管理者用のパスワードとセキュリティパスワードを変更できます。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set smtp	<p>hostname</p> <p>ここで</p> <p>hostname は SMTP サーバ名を表します。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>SMTP サーバのホスト名を設定します。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set timezone	<p>timezone</p> <p> (注) 新しい時間帯を一意に識別するのに十分な文字を入力してください。時間帯で使用する文字は、大文字と小文字が区別されることに注意が必要です。</p> <p> 注意 時間帯の変更後はシステムを再起動する必要があります。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>システムの時間帯を変更できます。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p> <p>例：時間帯を太平洋標準時に設定</p> <pre>set timezone Pac</pre>

表 A-3 Set コマンド (続き)

コマンド	パラメータ	説明
set trace	<p>enable Error <i>tname</i></p> <p>enable Special <i>tname</i></p> <p>enable State_Transition <i>tname</i></p> <p>enable Significant <i>tname</i></p> <p>enable Entry_exit <i>tname</i></p> <p>enable Arbitrary <i>tname</i></p> <p>enable Detailed <i>tname</i></p> <p>disable <i>tname</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>tname</i> はトレースをイネーブルまたはディセーブルにするタスクを表します。 • enable Error はタスクのトレース設定をエラー レベルに設定します。 • enable Special はタスクのトレース設定を特別レベルに設定します。 • enable State_Transition はタスクのトレース設定を状態遷移レベルに設定します。 • enable Significant はタスクのトレース設定を最上位レベルに設定します。 • enable Entry_exit はタスクのトレース設定を entry_exit レベルに設定します。 • enable Arbitrary はタスクのトレース設定を任意レベルに設定します。 • enable Detailed はタスクのトレース設定を詳細レベルに設定します。 • disable はタスクのトレース設定を解除します。 <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>指定のタスクのトレース アクティビティを設定します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
set web-security	<p><i>orgunit orgname locality state country</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>orgunit</i> は組織ユニットを表します。 • <i>orgname</i> は組織名を表します。 • <i>locality</i> は組織のロケーションを表します。 • <i>state</i> は組織のステータスを表します。 • <i>country</i> は組織の国名を表します。 <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>オペレーティング システムに関する Web セキュリティ証明書情報を設定します。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>


表 A-3 Set コマンド (続き)

コマンド	パラメータ	説明
set workingdir	activelog <i>directory</i> inactivelog <i>directory</i> install <i>directory</i> tftp <i>directory</i> ここで <ul style="list-style-type: none"> • activelog はアクティブなログの作業ディレクトリを設定します。 • inactivelog は非アクティブなログの作業ディレクトリを設定します。 • install はインストール ログの作業ディレクトリを設定します。 • tftp は TFTP ファイルの作業ディレクトリを設定します。 • directory は現在の作業ディレクトリを表します。 オプション なし	アクティブなログ、非アクティブなログ、インストール用のログに作業ディレクトリを設定します。 コマンド特権レベル：ログは 0、TFTP は 1 アップグレード時の許可の有無：あり

Unset コマンド

次の表に CLI の Unset コマンドのリストと説明を示します。

表 A-4 Unset コマンド

コマンド	パラメータ	説明
unset ipsec	<p>policy {ALL <i>policy-name</i>}</p> <p>association <i>policy-name</i> {ALL <i>association-name</i>}</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>policy-name</i> は IPSec ポリシーの名前を表します。 <i>association-name</i> は IPSec アソシエーションの名前を表します。 <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>IPSec のポリシーとアソシエーションをディセーブルにできます。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
unset network	<p>dns options [timeout] [attempts] [rotate]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> timeout は DNS クエリーのデフォルト設定が失敗したとシステムが判断するまでの待機時間を設定します。 attempts はデフォルト設定に失敗するまでの DNS の試行回数を設定します。 rotate はデフォルト設定をするネームサーバの選択方法を設定します。この設定によりネームサーバ間での負荷分散の方法が変化します。 <p>このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。</p> <p> 注意 続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>DNS オプションの設定を解除します。</p>


Delete コマンド

次の表に CLI の Delete コマンドのリストと説明を示します。

表 A-5 Delete コマンド

コマンド	パラメータ	説明
delete account	<p><i>account-name</i></p> <p>ここで <i>account-name</i> は管理者アカウントの名前を表します。</p> <p>オプション なし</p>	<p>管理者アカウントを削除できます。</p> <p>コマンド特権レベル：4</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
delete dns	<p><i>ip-address</i></p> <p>ここで <i>ip-address</i> は削除する DNS サーバの IP アドレスを表します。 このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。</p> <p> 注意 続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。</p> <p>オプション なし</p>	<p>DNS サーバの IP アドレスを削除できません。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
delete ipsec	<p>policy {ALL <i>policy-name</i>}</p> <p>association <i>policy name</i> {ALL <i>association-name</i>}</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>policy-name</i> は IPSec ポリシーを表します。 <i>association-name</i> は IPSec アソシエーションを表します。 <p>オプション なし</p>	<p>IPSec ポリシーとアソシエーションを削除できます。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>

表 A-5 Delete コマンド (続き)

コマンド	パラメータ	説明
delete process	<p><i>process-id</i> [force terminate crash]</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>process-id</i> はプロセスの ID 番号を表します。 <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> force : プロセスを強制的に停止します。 terminate : オペレーティング システムにプロセスを停止するよう指示します。 crash : プロセスをクラッシュさせクラッシュ ダンプを生成します。 <p> (注) コマンドだけではプロセスを削除できない場合限り force オプションを使用し、force オプションでプロセスを削除できない場合限り terminate オプションを使用してください。</p>	<p>特定のプロセスを削除できます。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
delete smtp	なし	<p>SMTP ホストを削除できます。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : なし</p>

Utility コマンド

次の表に CLI の Utility コマンドのリストと説明を示します。

表 A-6 Utility コマンド

コマンド	パラメータ	説明
utils core	list	既存のすべてのコア ファイルをリスト表示します。
utils core	<p>analyze core file name</p> <p>ここで</p> <p><i>core file name</i> はコア ファイルの名前を指定します。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>指定のコア ファイルのバックトレース、スレッド リスト、すべての CPU レジスタの現在の値を生成します。このコマンドによって、コア ファイルと同じ名前で拡張子 .txt の付いたファイルがコア ファイルと同じディレクトリに作成されます。</p> <p>このコマンドは、アクティブなパーティションでのみ動作します。</p>
utils csa	<p>disable</p> <p>システムによって CSA がディセーブルになります。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>Cisco Security Agent (CSA) を停止します。</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : なし</p>

表 A-6 Utility コマンド (続き)


コマンド	パラメータ	説明
utils csa	<p>enable</p> <p>CSA をイネーブルにするかどうかの確認を求められます。</p> <p> 注意 CSA の起動後はシステムを再起動する必要があります。</p> <p>オプション なし</p>	<p>Cisco Security Agent (CSA) をイネーブルにします。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
utils csa	<p>status</p> <p>CSA の稼働状況が表示されます。</p> <p>オプション なし</p>	<p>Cisco Security Agent (CSA) の現在のステータスが表示されます。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
utils dbreplication	<p>status</p> <p>オプション なし</p>	<p>データベースの複製のステータスを表示します。</p>
utils dbreplication	<p>stop</p> <p>オプション なし</p>	<p>データベースの複製の自動セットアップを停止します。</p>
utils dbreplication	<p>repair</p> <p>オプション なし</p>	<p>データベースの複製を修復します。</p>
utils dbreplication	<p>reset</p> <p>オプション なし</p>	<p>データベースの複製をリセットおよびリスタートします。</p>
utils disaster_recovery	<p>backup tape <i>tapeid</i></p> <p>ここで <i>tapeid</i> は使用可能なテープ デバイスの ID を表します。</p> <p>オプション なし</p>	<p>バックアップ ジョブを開始し、生成される tar ファイルをテープに格納します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>

表 A-6 Utility コマンド (続き)


コマンド	パラメータ	説明
<code>utils disaster_recovery</code>	<p>backup network <i>path servername username</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>path</i> はリモート サーバでのバックアップ ファイルの位置を表します。 <i>servername</i> はバックアップ ファイルを格納しているサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。 <i>username</i> はリモート サーバにログインするために必要なユーザ名を表します。 <p> (注) リモート サーバのアカウントのパスワード入力を求められます。</p> <p>オプション なし</p>	<p>バックアップ ジョブを開始し、生成される tar ファイルをリモート サーバに格納します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>
<code>utils disaster_recovery</code>	<p>cancel_bakckup</p> <p>バックアップ ジョブをキャンセルするかどうか確認を求められます。</p> <p>オプション なし</p>	<p>継続中のバックアップ ジョブをキャンセルします。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>
<code>utils disaster_recovery</code>	<p>configure_features <i>features</i></p> <p>ここで</p> <p><i>features</i> は 1 つまたは複数の機能を障害復旧バックアップに含めることを指定します。複数の機能名はカンマ (,) で区切ります。</p> <p>オプション なし</p>	<p>ディザスタ リカバリ システムがバックアップする機能を設定できます。</p> <p><code>utils disaster_recovery show_registration</code> コマンドを使用して、サーバに登録されている機能のリストを確認します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
<code>utils disaster_recovery</code>	<p>restore tape <i>server tarfilename tapeid</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>server</i> は復元するサーバのホスト名を指定します。 <i>tarfilename</i> は復元するファイル名を指定します。 <i>tapeid</i> は復元ジョブを実行するテープ デバイスの名前を指定します。 <p>オプション なし</p>	<p>復元ジョブを開始し、バックアップ ファイルの tar をテープから取り出します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>

表 A-6 Utility コマンド (続き)



コマンド	パラメータ	説明
utils disaster_ recovery	<p>restore network <i>restore_server tarfilename path servername username</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>restore_server</i> は復元するサーバのホスト名を指定します。 <i>tarfilename</i> は復元するファイル名を指定します。 <i>path</i> はリモート サーバでのバックアップ ファイルの位置を表します。 <i>servername</i> はバックアップ ファイルを格納しているサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。 <i>username</i> はリモート サーバにログインするために必要なユーザ名を表します。 <p> (注) リモート サーバのアカウントのパスワード入力を求められます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>復元ジョブを開始し、バックアップ ファイルの tar をリモート サーバから取り出します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>
utils disaster_ recovery	<p>show_backupfiles network <i>path servername username</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>path</i> はリモート サーバでのバックアップ ファイルの位置を表します。 <i>servername</i> はバックアップ ファイルを格納しているサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。 <i>username</i> はリモート サーバにログインするために必要なユーザ名を表します。 <p> (注) リモート サーバのアカウントのパスワード入力を求められます。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>リモート サーバに格納されているバックアップ ファイルの情報を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
utils disaster_ recovery	<p>show_bakcupfiles tape <i>tapeid</i></p> <p>ここで</p> <p><i>tapeid</i> は使用可能なテープ デバイスの ID を表します。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>テープに格納されているバックアップ ファイルの情報を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>

表 A-6 Utility コマンド (続き)

コマンド	パラメータ	説明
utils disaster_ recovery	show_registration <i>hostname</i> ここで <i>hostname</i> は登録情報を表示するサーバを指定します。 オプション なし	指定のサーバに登録されている機能およびコンポーネントを表示します。 コマンド特権レベル：1 アップグレード時の許可の有無：なし
utils disaster_ recovery	show_tapeid オプション なし	テープ デバイス ID のリストを表示します。 コマンド特権レベル：1 アップグレード時の許可の有無：なし
utils disaster_ recovery	status <i>operation</i> ここで <i>operation</i> には backup または restore のいずれかを継続中の操作名として指定します。 オプション なし	現在のバックアップまたは復元ジョブのステータスを表示します。 コマンド特権レベル：1 アップグレード時の許可の有無：なし
utils iothrottle	enable オプション なし	I/O スロットリング拡張をイネーブルにします。イネーブルにすると、I/O スロットリング拡張により、アクティブなシステムに対するアップグレードの影響が抑えられます。
utils iothrottle	disable オプション なし	I/O スロットリング拡張をディセーブルにします。このコマンドにより、アップグレード時にシステムに影響がおよぶ可能性があります。
utils iothrottle	status オプション なし	I/O スロットリング拡張のステータスを表示します。

表 A-6 Utility コマンド (続き)

コマンド	パラメータ	説明
utils netdump	<p>client start <i>ip-address-of-netdump-server</i></p> <p>client status</p> <p>client stop</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • client start は netdump クライアントを開始します。 • client status は netdump クライアントのステータスを表示します。 • client stop は netdump クライアントを停止します。 • <i>ip-address-of-netdump-server</i> はクライアントが診断情報を送信する netdump サーバの IP アドレスを指定します。 <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>netdump クライアントを設定します。</p> <p>カーネルのパニック クラッシュのイベントが発生すると、netdump クライアントは netdump サーバに診断情報を送信します。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>
utils netdump	<p>server add-client <i>ip-address-of-netdump-client</i></p> <p>server delete-client <i>ip-address-of-netdump-client</i></p> <p>server list-clients</p> <p>server start</p> <p>server status</p> <p>server stop</p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • server add-client は netdump クライアントを追加します。 • server delete-client は netdump クライアントを削除します。 • server list-clients はこの netdump サーバに登録されているクライアントをリスト表示します。 • server start は netdump サーバを起動します。 • server status は netdump サーバのステータスを表示します。 • server stop は netdump サーバを停止します。 • <i>ip-address-of-netdump-client</i> は netdump クライアントの IP アドレスを指定します。 <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>netdump サーバを設定します。</p> <p>カーネルのパニック クラッシュのイベントが発生すると、netdump がイネーブルのクライアント システムは netdump サーバに診断情報を送信します。</p> <p>netdump 診断情報は、netdump サーバの <i>crash/</i> に格納されます。クライアントの IP アドレスおよび日付で名前が構成されるサブディレクトリに netdump 情報が含まれています。</p> <p>各 Cisco Unified Communications Operating System サーバは、netdump のクライアントとサーバの両方として動作するように設定できます。</p> <p>サーバが別の Cisco Unified Communications Operating System サーバ上にある場合は、カーネル パニック トレース シグニチャのみサーバに送信され、それ以外の場合はコア ダンプ全体が送信されます。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>

表 A-6 Utility コマンド (続き)

コマンド	パラメータ	説明
utils network	arp list [<i>host host</i>][<i>page</i>][<i>numeric</i>] arp set { <i>host</i> } { <i>address</i> } arp delete <i>host</i> ここで <ul style="list-style-type: none"> • arp list はアドレス解決プロトコル テーブルの内容をリスト表示します。 • arp set はアドレス解決プロトコル テーブルのエントリを設定します。 • arp delete はアドレス解決テーブルのエントリを削除します。 • <i>host</i> はテーブルに追加したりテーブルから削除したりするホストのホスト名または IP アドレスを表します。 • <i>address</i> は削除するホストの MAC アドレスを表します。MAC アドレスは、XX:XX:XX:XX:XX:XX の形式で入力してください。 オプション <i>page</i> : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。 <i>numeric</i> : ホストをドット付き IP アドレスで表示しません。	このコマンドは、Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル) テーブルのエントリをリスト表示、設定、または削除します。 コマンド特権レベル : 0 アップグレード時の許可の有無 : あり

表 A-6 Utility コマンド (続き)





コマンド	パラメータ	説明
utils network	<p>capture eth0 [<i>page</i>] [<i>numeric</i>] [<i>file fname</i>] [<i>count num</i>] [<i>size bytes</i>] [<i>src addr</i>] [<i>dest addr</i>] [<i>port num</i>]</p> <p>ここで</p> <p>eth0 は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。</p> <p>オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • page : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。 <p> (注) page オプションまたは file オプションを使用する場合は、コマンドを終了する前に要求したすべてのパケットのキャプチャ全体が終了している必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • numeric : ホストをドット付き IP アドレスで表示します。 • file fname : 情報をファイルに出力します。 <p> (注) file オプションは情報を platform/cli/fname.cap に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。</p> <p>count num : キャプチャするパケットの数のカウントを設定します。</p> <p> (注) 画面出力の最大カウントは 1000 で、ファイル出力の最大カウントは 10,000 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • size bytes : キャプチャするパケットのバイト数を設定します。 <p> (注) 画面出力の最大バイト数は 128 で、ファイル出力の最大バイト数は ALL です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • src addr : パケットの送信元アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。 • dest addr : パケットの宛先アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。 • port num : 送信元または宛先のパケットのポート番号を指定します。 	<p>指定したイーサネット インターフェイスの IP パケットをキャプチャします。パケットは画面に表示したりファイルに保存したりできます。出力が改行される場合があります。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>

表 A-6 Utility コマンド (続き)

コマンド	パラメータ	説明
utils network	<p>host <i>hostname</i> [server <i>server-name</i>] [page] [detail] [srv]</p> <p>ここで</p> <p><i>hostname</i> は解決するホスト名または IP アドレスを表します。</p> <p>オプション</p> <p><i>server-name</i> : 代替ドメイン ネーム サーバを指定します。</p> <p>page : 出力を 1 回に 1 画面ずつ表示します。</p> <p>detail : 詳細をリスト表示します。</p> <p>srv : DNS SRV レコードを表示します。</p>	<p>ホスト名からアドレスを解決したりアドレスからホスト名を解決したりします。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
utils network	<p>ping <i>destination</i> [<i>count</i>]</p> <p>ここで</p> <p><i>destination</i> は ping するサーバのホスト名または IP アドレスを表します。</p> <p>オプション</p> <p><i>count</i> : 外部サーバを ping する回数を指定します。デフォルトのカウン트는 4 です。</p>	<p>別のサーバに ping を実行できます。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
utils network	<p>tracert <i>destination</i></p> <p>ここで</p> <p><i>destination</i> はトレースを送信するサーバのホスト名または IP アドレスを表します。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>リモートの宛先に送信される IP パケットをトレースします。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>
utils ntp	<p>{status config}</p>	<p>NTP のステータスまたは設定を表示します。</p> <p>コマンド特権レベル : 0</p> <p>アップグレード時の許可の有無 : あり</p>

表 A-6 Utility コマンド (続き)




コマンド	パラメータ	説明
utils remote_account	<p>status</p> <p>enable</p> <p>disable</p> <p>create <i>username life</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>username</i> はリモート アカウントの名前を指定します。ユーザ名に使用できるのは小文字のみで 6 文字以上が必要です。 <i>life</i> はアカウントの生存期間を日数で指定します。指定の日数が経過すると、アカウントは失効します。 <p> (注) 1 回にイネーブルにできるリモート アカウントは 1 つのみです。</p> <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>リモート アカウントのイネーブル化、ディセーブル化、作成、ステータスの確認ができます。</p> <p> (注) リモート アカウントからパスワードが生成されます。このパスワードを使用して、シスコシステムのサポート担当者は、指定された生存期間中にシステムにアクセスできます。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p> <p>例</p> <pre>utils remote_account status</pre>
utils reset_ui_administrator_password	<p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>このコマンドは、Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理パスワードをリセットします。</p>
utils service	<p>list [page]</p> <p>オプション</p> <p>page：出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。</p>	<p>すべてのサービスおよびそれらのステータスのリストを取得します。</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の許可の有無：あり</p>
utils service	<p>start <i>service-name</i></p> <p>stop <i>service-name</i></p> <p>restart <i>service-name</i></p> <p>ここで</p> <p><i>service-name</i> は停止または開始するサービスの名前を表します。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> System NTP System SSH Service Manager A Cisco DB Cisco Tomcat Cisco Database Layer Monitor Cisco Unified CallManager Serviceability <p>オプション</p> <p>なし</p>	<p>サービスを停止、開始、またはリスタートします。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p>

表 A-6 Utility コマンド (続き)

コマンド	パラメータ	説明
utils sftp	handshake オプション なし	クラスタのすべてのメンバー間で SFTP SSH キーを交換します。
utils snmp	test オプション なし	ローカルの syslog、リモートの syslog、および SNMP トラップにサンプル アラームを送信して SNMP ホストをテストします。 コマンド特権レベル：0 アップグレード時の許可の有無：なし
utils soap	realtimeservice test <i>remote-ip remote-https-user remote-https-password</i> ここで <ul style="list-style-type: none"> <i>remote-ip</i> はテスト対象サーバの IP アドレスを指定します。 <i>remote-https-user</i> は SOAP API へのアクセス権を持つユーザ名を指定します。 <i>remote-https-password</i> は SOAP API へのアクセス権を持つアカウントのパスワードを指定します。 オプション なし	リモート サーバでいくつかのテスト ケースを実行します。 コマンド特権レベル：0 アップグレード時の許可の有無：なし
utils system	{restart shutdown switch-version}  (注) 選択した動作の確認を求められます。 utils system shutdown コマンドのタイムアウトは 5 分間です。システムが 5 分以内にシャットダウンしない場合、このコマンドによって強制シャットダウンのオプションが提供されます。	同一パーティション上のシステムの再起動、非アクティブなパーティション上のシステムの再起動、またはシステムのシャットダウンができます。 コマンド特権レベル：1 アップグレード時の許可の有無：なし

Run コマンド

次の表に CLI の Run コマンドのリストと説明を示します。

表 A-7 Run コマンド

コマンド	パラメータ	説明
run sql	<p><i>sql_statement</i></p> <p>ここで <i>sql_statement</i> は実行する SQL コマンドを表します。</p> <p>オプション なし</p>	<p>SQL コマンドを実行できます。</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の許可の有無：なし</p> <p>例：SQL コマンドの実行 run sql select name from device</p>



C		管理	6-9
CLI		ポリシー フィールド (表)	6-11
概要	A-1	ポリシーの表示	6-9
基本	A-3	ポリシーの変更	6-9
コマンド			
Delete	A-32	N	
File	A-5	NTP サーバの設定	4-3
Run	A-44		
Set	A-23	P	
Show	A-11	ping	8-1
Unset	A-31		
Utility	A-33	R	
説明 (表)	A-5	Run コマンド	A-44
ヘルプの取得	A-3		
補完	A-3	S	
セッションの開始	A-2	Set コマンド	A-23
セッションの終了	A-4	Show コマンド	A-11
CTL		SMTP 設定	4-4
アップロード	6-5		
管理	6-2	T	
ダウンロード	6-3	TFTP サーバ、ファイルのインストール	7-10
D			
Delete コマンド	A-32	U	
F		Unset コマンド	A-31
File コマンド	A-5	Utility コマンド	A-33
I			
Internet Explorer		い	
セキュリティ オプションの設定	6-1	イーサネットの設定	4-1
IPSec			
新しいポリシーの設定	6-10		

- インストール
 - ダイヤルプラン 7-6
 - ロケール 7-7
- インストール/アップグレード、メニュー 1-4
- インストールされているソフトウェア
 - 手順 3-5
 - フィールド(表) 3-5

- え
- エラーメッセージ
 - 説明(表) 7-8

- お
- オペレーティングシステム
 - 概要 1-1
 - 管理者パスワード 2-3
 - サービス 1-4
 - 再起動 5-2
 - 再起動オプション 1-3
 - ステータス 1-2, 3-1
 - セキュリティ 1-3
 - 設定 1-2, 3-1, 4-1
 - ソフトウェアアップグレード 1-4
 - ネットワークステータスフィールド(表) 3-4
 - ハードウェアステータス
 - 手順 3-3
 - フィールド(表) 3-3
 - はじめに 1-1
 - ブラウザ要件 1-2
 - ログ 3-3
 - ログイン 2-1, 2-2

- か
- 管理者パスワード 2-3

- く
- クラスタノード
 - 手順 3-2
 - フィールド(表) 3-2

- こ
- コマンドラインインターフェイス
 - 「CLI」を参照

- さ
- サービス
 - ping 1-4, 8-1
 - 概要 8-1
 - リモートサポート 1-4
 - 概要 8-2
 - 設定 8-2
- 再起動
 - オプション 1-3
 - 現在のバージョン 5-2
 - システム 5-1
 - メニュー 1-3
- サポート製品 7-9

- し
- 時間の設定 4-4
- システム
 - 再起動 5-1
 - シャットダウン 5-3
 - ステータス
 - 手順 3-6
 - フィールド(表) 3-6
- シャットダウン、オペレーティングシステム 5-3
- 証明書
 - アップロード 6-5
 - 管理 6-2
 - 再作成 6-4
 - 削除 6-4
 - 署名要求のダウンロード 6-6
 - ダウンロード 6-3
 - 表示 6-2
 - 有効期限日の監視 6-8
 - 有効期限モニタのフィールド(表) 6-8
- 証明書信頼リスト
 - 「CTL」を参照

- す
- ステータス
 - オペレーティング システム 1-2, 3-1
 - システム
 - 手順 3-6
 - フィールド (表) 3-6
 - ネットワーク
 - 手順 3-4
 - フィールド (表) 3-4
 - ハードウェア
 - 手順 3-3
 - フィールド (表) 3-3
- せ
- セキュリティ
 - IE オプションの設定 6-1
 - 概要 6-1
 - 設定 1-3
 - メニュー 1-3
 - 設定
 - IP 4-1
 - NTP サーバ 4-3
 - SMTP 4-4
 - イーサネット
 - 手順 4-1
 - フィールド (表) 4-2
 - オペレーティング システム 1-2, 3-1
 - 概要 4-1
 - 時間 4-4
 - パブリッシャ 4-2
 - メニュー 1-2
- そ
- ソフトウェア
 - アップグレード 1-4
 - 概要 7-1
 - 手順 7-2
 - リモートソースから 7-4
 - ローカルソースから 7-2
 - インストール 7-2
 - インストールされている
 - 手順 3-5
 - フィールド (表) 3-5
- た
- ダイヤル プランのインストール 7-6
- ね
- ネットワーク ステータス
 - 手順 3-4
 - フィールド (表) 3-4
- の
- ノード、クラスタ
 - 手順 3-2
 - フィールド (表) 3-2
- は
- バージョン、再起動 5-2
 - ハードウェア、ステータス
 - 手順 3-3
 - フィールド (表) 3-3
 - パスワード、回復 2-3
 - パブリッシャの設定 4-2
- ひ
- 表示、メニュー 1-2
- ふ
- ブラウザ要件 1-2
- め
- メッセージ、エラー 7-8
 - メニュー
 - インストール / アップグレード 1-4
 - 再起動 1-3
 - セキュリティ 1-3
 - 設定 1-2
 - 表示 1-2

り

リモート サポート

ステータス フィールド (表) 8-3

設定 8-2

ろ

ログ 3-3

ログイン

概要 2-1

手順 2-2

ロケール

インストーラ

エラー メッセージ (表) 7-8

インストール 7-7

ファイル 7-8